

年少労働調査資料第67集

勤労青少年の職業と余暇に関する調査

— 結 果 報 告 —

昭和51年11月

労働省婦人少年局

は し が き

昭和48年の石油ショック以後、経済情勢は低成長時代へと移行し、景気変動の影響が比較的少ないと言われる勤労青少年の職場環境も変貌してきていると考えられる。一方、労働時間短縮、週休二日制の普及に伴い、ひきつづき余暇時間は増大し、勤労青少年の余暇生活のあり方は職業生活にも深く係わっていると同時に、成長過程にある勤労青少年の人格形成に及ぼす影響も無視できない。そこで、青少年就業者の半数を占める製造業及び卸売業・小売業について、勤労青少年の職業生活と余暇生活の実態と意識をは握し、これら青少年のための福祉施策の参考に資するため本調査を実施したものである。

調査の結果が関係各方面に活用されれば幸いである。

おわりに、調査に御協力いただいた事業主並びに青少年の方々に深くお礼申し上げます。

昭和51年 11月

労働省婦人少年局

目 次

は し が き

I 調査の概要	1
II 調査結果	2
1 勤労青少年の個人的特性	2
(1) 性	2
(2) 年 令	3
(3) 学 歴	3
(4) 居住形態等	4
2 人生の目標と友人関係	6
(1) 人生の目標	6
(2) 友人関係	8
イ 親友の有無	8
ロ 親友と知り合った動機	9
ハ 親友との話題	9
ニ 異性の友人、恋人	10
3 職業生活	11
(1) 職 種	11
(2) 雇用形態	12
(3) 勤務形態	13
(4) 賃金形態	14
(5) 週休制の形態	15
(6) 1カ月の手取賃金額及び仕送り・家計負担の状況	16
イ 1カ月の手取賃金額	16

ロ. 仕送り・家計負担の状況	17
(7) 経済不況の影響	19
イ. 事業所の休業に伴う影響	19
ロ. 残業減少に伴う影響	22
(8) 職場でのなやみ・不満	25
イ. なやみ・不満の有無と内容	25
ロ. なやみ・不満の相談相手	29
(9) 職場への定着状況と定着意識	29
イ. 勤続年数	29
ロ. 転職状況	30
a 転職の有無と回数	30
b 転職の理由	31
ハ. 勤務継続意志	32
4. 余暇生活	35
(1) 平日の余暇	35
イ. 余暇の過ごし方	35
ロ. 余暇を過ごした場所	35
ハ. 余暇を過ごした相手	38
(2) 休日の余暇	39
イ. 余暇の過ごし方	39
ロ. 余暇を過ごした場所	39
ハ. 余暇を過ごした相手	40
(3) クラブ活動、講習講座受講等の状況	40
イ. クラブ活動の状況	40
ロ. 講習、講座の受講状況	42
ハ. 通学等の状況	44
(4) まとまった休暇	45

イ. まとまった休暇の有無	45
ロ. まとまった休暇の過ごし方	46
(5) 余暇施設の利用状況	50
(6) 希望する余暇行動, 余暇施設	53
イ. 希望する余暇行動	53
ロ. 身近に設置を希望する余暇施設	54

I 調 査 の 概 要

1. 調査の目的

経済情勢の変動とともに、勤労青少年をとりまく職場環境も変貌し、一方、労働時間短縮、週休二日制の普及に伴って余暇時間が増大している。そこで、勤労青少年の職業生活と余暇生活の実情をは握し、勤労青少年の福祉施策の参考に資することを目的に実施した。

2. 調査の範囲

(1) 地域 全国

(2) 対象

日本標準産業分類による製造業及び卸売業・小売業に属し、従業員規模5人以上（製造業は10人以上）の約400事業所に雇用される者の中から無作為に抽出された15才以上24才以下の未婚の青少年2,965人

(3) 調査事項

イ 職業生活の状況

ロ 人生の目標

ハ 友人関係

ニ 余暇生活の状況

(4) 調査実施期間

昭和50年11月15日～12月14日

(5) 調査機関

労働省婦人少年局－都道府県婦人少年室－統計調査員

(6) 調査の方法

実地他計の方法による。

Ⅱ 調 査 結 果

1. 勤労青少年の個人的特性

調査対象となった勤労青少年は、2,965人で、製造業が1,805人(60.9%)、卸売業・小売業が1,160人(39.1%)で、事業所規模別にみると、5～29人が353人(11.9%)、30～99人が530人(17.9%)、100～999人が1,134人(38.2%)、1,000人以上が948人(32.0%)である。対象者の個人的特性は次のとおりである。

(1) 性

調査対象者の性別構成は、第1表のとおりで、男女ほぼ同数であるが、製造業では男子が半数強を占めて多く、卸売業・小売業では女子が63.4%を占めて多い。事業所規模別には、全体として規模間の男女別構成は各々5割前後で大差はみられないが、製造業のみについてみると、100人未満の事業所では、男子が約7割を占めて多い(付表1)。

第1表 調査対象者の性別構成

(%)

		計	男	女
計		100.0 (2,965)	48.3	51.7
産 業	製 造 業	100.0 (1,805)	55.8	44.2
	卸売業・小売業	100.0 (1,160)	36.6	63.4
規 模	5～29人	100.0 (353)	49.0	51.0
	30～99人	100.0 (530)	55.1	44.9
	100～999人	100.0 (1,134)	44.2	55.8
	1,000人以上	100.0 (948)	49.2	50.8

注) ()内は実数、以下同じ。

(2) 年令

調査対象者の年令構成は、34.1%が15～19才、65.9%が20～24才で、産業別には製造業に、事業所規模別には大規模事業所になるほど15～19才の割合が高い（第2表、付表1）。

第2表 調査対象者の年令構成

(%)

		計	15～19才	20～24才
計		100.0	34.1	65.9
産業	製造業	100.0	36.4	63.6
	卸売業・小売業	100.0	30.5	69.5
規模	5～29人	100.0	28.9	71.1
	30～99人	100.0	33.4	66.6
	100～999人	100.0	33.4	66.6
	1,000人以上	100.0	37.2	62.8
性別	男	100.0	32.9	67.1
	女	100.0	35.2	64.8

(3) 学歴

調査対象者の学歴構成は、高校卒が7割近くを占めて多く、中学卒は24.1%、短大・大学卒は9.2%で、高等学校への進学率の上昇を反映しているが、特に卸売業・小売業では中学卒が1割と少なく高校卒が8割を占めている。しかし、製造業の100人未満の事業所では、中学卒の割合が高く、その中でも10～29人規模では高校卒は4割で、中学卒が半数をこえている。

性別にみると女子は高校卒が7割（男子6割）を占めるが、中学卒と短大、大学卒は男子に多い（第3表、付表1）。

第3表 調査対象者の学歴構成

		計	中学卒	高校卒	短大・ 大学卒	不 明
計		100.0	24.1	66.4	9.2	0.3
産 業	製 造 業	100.0	33.2	58.5	8.0	0.3
	卸売業・小売業	100.0	9.9	78.6	11.2	0.3
規 模	5～29人	100.0	27.7	62.6	9.1	0.4
	30～99人	100.0	29.2	63.8	6.6	0.4
	100～999人	100.0	25.2	65.4	9.1	0.3
	1,000人以上	100.0	18.6	70.3	11.0	0.1
性	男	100.0	27.1	60.2	12.4	0.3
	女	100.0	21.3	72.1	6.3	0.3

(4) 居住形態等

居住形態

「親元」(53.9%)で生活している者が多いが、「寄宿舍・寮」(34.9%)や「アパート・下宿等」(10.9%)、「住込」(0.2%)等親元を離れている者も46.0%で半数に近い。

製造業では「寄宿舍・寮」に住んでいる者が多く4割で「アパート・下宿等」は卸売業・小売業が16.2%でやや割合が高い。事業所規模別にみると、100人未満の事業所では約7割が「親元」であるが、100人以上の事業所では「寄宿舍・寮」に居住する者が多く、なかでも、規模1,000人以上は約半数を占めている。また、「寄宿舍・寮」に居住している者は男子に多く、年齢階層別には15～19才の者に多い(第4表)。

第 4 表 居住形態別構成

(%)

		計	親 元	寄 宿 舎 ・ 寮 等	住 込	アパ-ト・ 下 宿 等	不 明
計		100.0	53.9	34.9	0.2	10.9	0.1
産 業	製 造 業	100.0	50.2	42.1	0.1	7.5	0.1
	卸売業・小売業	100.0	59.5	23.8	0.4	16.2	0.1
規 模	5～29人	100.0	68.3	16.7	2.0	13.0	—
	30～99人	100.0	67.7	23.4	—	8.7	0.2
	100～999人	100.0	51.8	34.8	—	13.4	—
	1,000人以上	100.0	43.3	48.2	—	8.4	0.1
性	男	100.0 (1,432)	51.5	39.5	0.2	8.7	0.1
	女	100.0 (1,533)	56.1	30.6	0.3	13.0	—
年 令	15～19才	100.0 (1,011)	49.1	44.5	0.3	6.1	—
	20～24才	100.0 (1,954)	56.4	29.9	0.2	13.4	0.1

通勤時間

通勤時間は、「30分まで」が6割で、「30分をこえ1時間まで」が3割、「1時間以上」が1割で、比較的通勤時間が短い者が多い(第5表)。

第 5 表 通勤時間階層別構成

(%)

	計	30分まで	30分をこえ 1時間まで	1時間以上	不 明
計	100.0	61.1	29.3	9.3	0.3
男	100.0	66.6	24.2	8.9	0.3
女	100.0	56.0	34.1	9.7	0.2

2. 人生の目標と友人関係

(1) 人生の目標

人生の目標について、用意した次の選択肢のうち、自分に近いものを選んでもらった。(注、二つ以上あげた者が少数あり、回答の合計は100%を上回った。)

1. 地位や名誉を得ること
2. 金持になること
3. 仕事に打ちこむこと
4. 社会のために役立つ仕事、活動をする
5. 仕事はともかくとして趣味豊かな生活をする
6. 明るい家庭を築くこと
7. その他

第 6 表 人 生 の 目 標 別

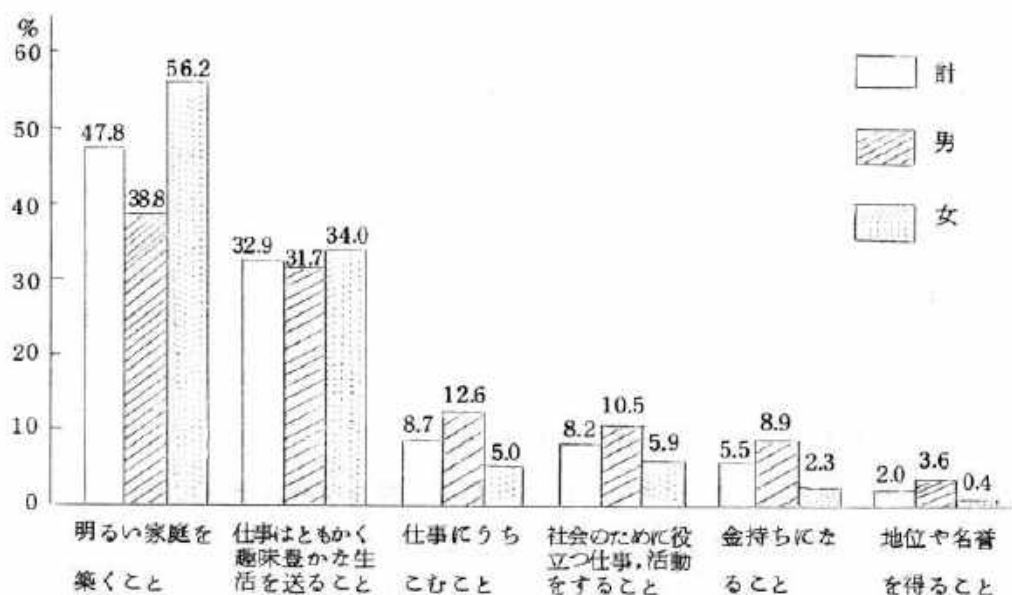
(%)

		計	地位や 名誉を 得ること	金持ち になる こと	仕事に 打ちこ むこと	社会の ために 役立つ 仕事、 活動を すること	仕事は ともかく 趣味豊 かな生 活をす ること	明るい 家庭を 築くこ と	その他	不 明
計		100.0	2.0	5.5	8.7	8.2	32.9	47.8	2.7	1.7
産 業	製 造 業	100.0	2.0	5.7	9.0	9.4	34.6	44.5	1.9	1.4
	卸売業・小売業	100.0	2.0	5.2	8.2	6.2	30.3	52.9	2.8	2.2
規 模	5～29人	100.0	1.4	7.4	9.6	6.8	28.9	49.6	2.3	1.7
	30～99人	100.0	1.1	5.8	8.1	5.3	31.5	52.4	1.3	0.1
	100～999人	100.0	2.6	3.5	8.7	11.1	35.7	42.7	1.3	2.2
	1,000人以上	100.0	1.8	4.1	7.1	5.6	31.8	50.7	2.8	1.7
年 令	15～19才	100.0	1.6	6.0	9.1	7.6	28.3	52.6	2.0	1.1
	20～24才	100.0	2.1	5.2	8.4	8.4	35.3	45.3	3.1	2.0

注) 二つ以上あげた者がいるため回答の合計は100%を上回った。

その結果、「明るい家庭を築くこと」(47.8%)と「仕事はともかく趣味豊かな生活を送ること」(32.9%)の二つを人生の目標にあげた者が多く、両者で約8割を占めている。特に、「明るい家庭を築くこと」は、産業別には卸売業・小売業に働く者に多く、性別には女子の6割近くがあげている。一方、「仕事に打ちこむこと」をあげた者は約1割で、産業別にみても事業所規模別にみても差がなく、現在の仕事に生きがいを見出している者は少ないといえる。また、「社会のために役立つ仕事、活動すること」、「金持ちになること」、「地位や名誉を得ること」等をあげた者も女子よりは男子が多いが、いずれも1割未満で、仕事・社会的地位等を目標とする者は少なく、家庭の建設や趣味といった、私的な面で生きがいを持とうと考えている者が圧倒的に多いといえる。「その他」(2.7%)には、人間的に成長すること、人間らしく生きる、目標はない、考えたことがない等があげられている(第6表、第1図)。

第1図 性別にみた人生の目標 (単位: %)



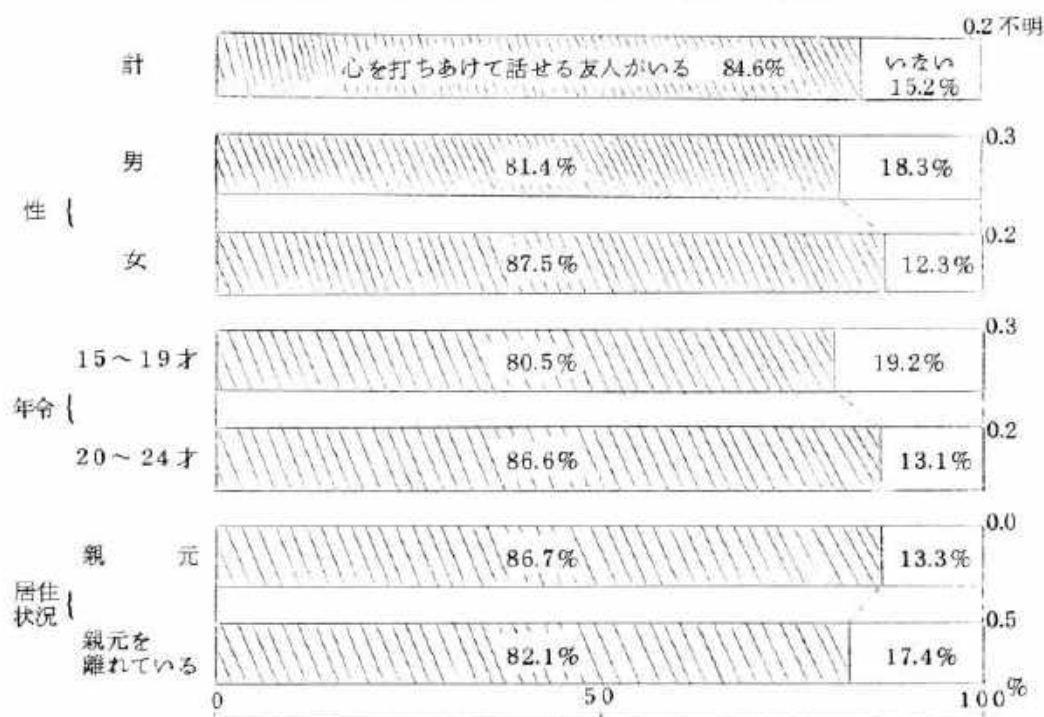
注) 二つ以上あげた者がいるため回答の合計は100%を上回った。

(2) 友人関係

イ 親友の有無

青少年の人生を豊かなものとする上で友人の存在は大きいが、「あなたは心を打ちあけて話せる友人がいますか」とたずねたところ、「いる」が多く84.6%である。一方、「いない」もかなりおり15.2%で親友を持っていない者は、性別には男子が、年齢階層別には、15～19才が、さらに親元にいる者よりも親元を離れている者が若干その割合が高い（第2図）。

第2図 心をうちあけて話せる友人の有無



参考までに、総理府青少年対策本部が昭和47年10月実施した「世界青年意識調査」結果から、世界の青年の親友の有無をみると、他国に比べ日本の青年は、親友がいない者が23%で最も多くなっている。（ブラジル21%、インド16%、フィリピン13%、フランス15%、西ドイツ12%、イギリス12%、アメリカ8%、スイス7%、ユーゴスラヴェア

4%、スウェーデン3%)。なお、同調査の調査対象は18～24才の青年で学生や既婚者も含まれている。

本調査の勤労青少年の場合、世界青年意識調査結果の日本の青年の場合にくらべ親友を持っている者が多いが、寄宿舍・寮等親元を離れている者で親友がいない場合、孤独な生活を送らざるを得ない状況にあるといえよう。

ロ 親友と知り合った動機

親友と知り合った動機は、「学生るとき」(65.2%)と「職場」(46.8%)の両者に集中しており、「クラブ・サークル」(6.1%)や「旅行・ハイキング・ドライブ」(1.6%)、「その他」(4.7%)等は割合が低い(第7表)。

第7表 親友と知り合った動機

親友がいる者＝100%

		計	職 場	学 生 の 時 代	クラブ・ サークル	旅行ハイ キング	その他	不 明
計		100.0	46.8	65.2	6.1	1.6	4.7	1.0
性	男	100.0	42.6	66.6	8.9	2.1	4.2	0.7
	女	100.0	50.4	63.9	3.7	1.0	5.2	1.3
年 令	15～19才	100.0	45.6	66.8	4.8	1.7	3.9	0.7
	20～24才	100.0	47.4	64.4	6.8	1.5	5.1	1.2
居住状況	親 元	100.0 (1,384)	43.9	69.8	5.4	1.4	3.2	1.2
	親元を離れている	100.0 (1,123)	50.4	59.5	7.0	1.8	6.6	0.9

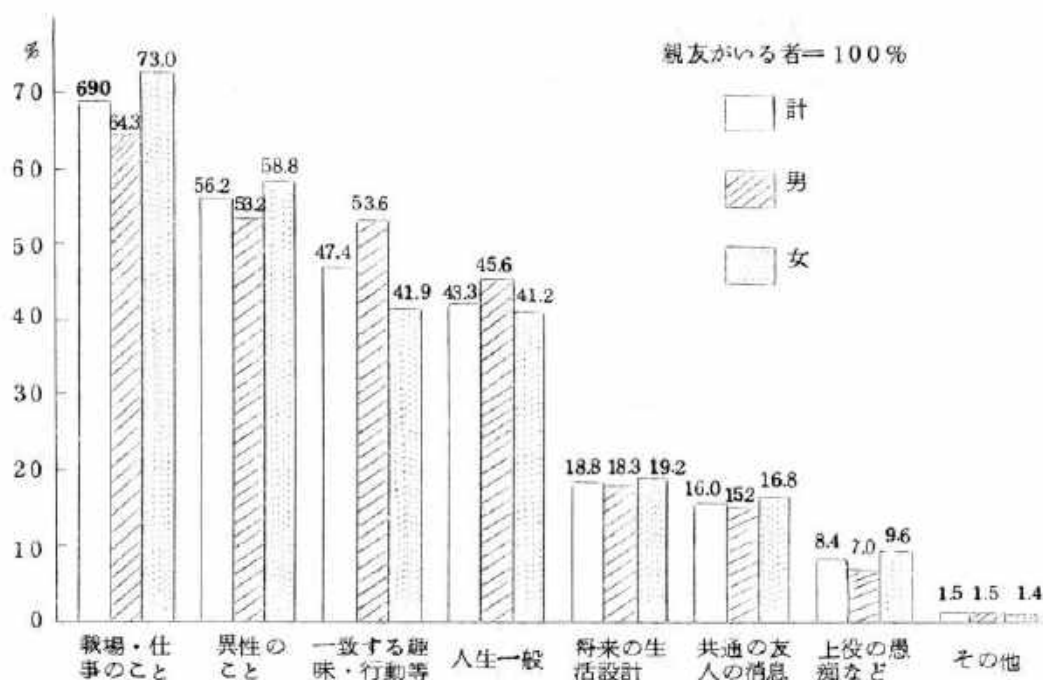
注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

ハ 親友との話題

親友と「いつもどんなことを話しますか(主なもの3つまであげてください。)」とたずねたところ、「職場・仕事のこと」(69.0%)が最も多く、仕事を人生の目標にした者は少ない反面、日常生活では仕事や職場

が強い関心事であるといえる。次が「異性のこと」(56.2%)で、未婚の青少年にとり異性が大きなウェイトを占めていることがわかる。その他「一致する趣味・行動等」(47.4%)、「人生一般」(43.3%)に関する話題が多く、以上四者は、性、年齢等に関係なく高い割合を占める(第3図、付表2)。

第3図 親友との主な話題



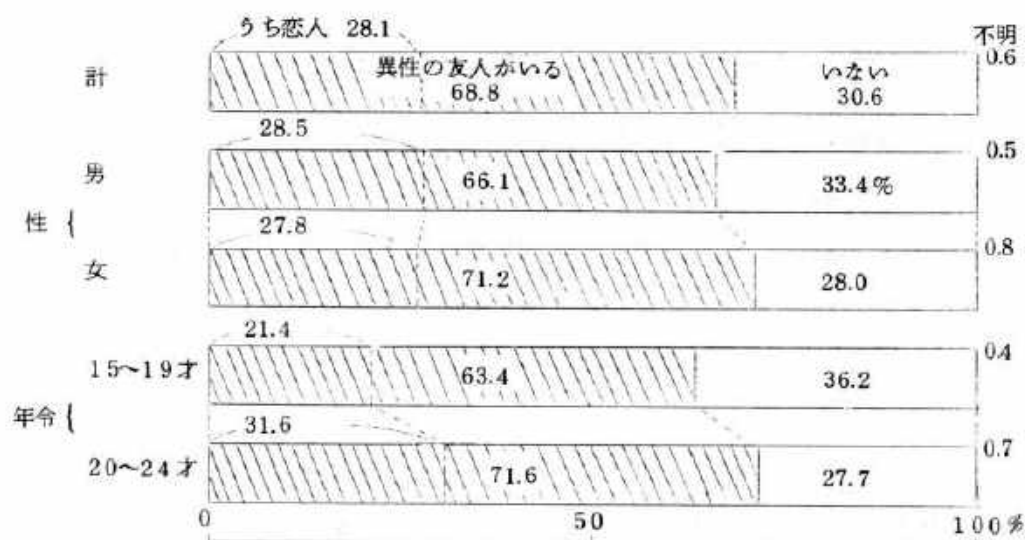
注) 多答式のため回答の合計は100を上回る。

ニ 異性の友人、恋人

異性の友人を持っている者は約7割で、その異性の友人は「恋人」と答えた者は約3割である。異性の友人を持つ者は女子の方がやや多い。また、15～19才の者と20～24才の者をくらべると、異性の友人を持つ者並びに恋人を持つ者は、年齢層の高い20～24才の者の方がかなり多い

(第 4 図、付表 3)

第 4 図 異性の友人並びに恋人の有無



3. 職業生活

(1) 職 種

製造業では、技能工・現場作業員が多く、男子は約 7 割、女子は約 5 割が従事しており、これ以外はほとんどが事務に従事している。卸売業・小売業では、男子は、販売員が約 7 割を占めて多いが、女子は、事務員が約 5 割、販売員が約 4 割で事務員の割合が高い。事務員のうち、タイプ、パンチなど機械事務に従事する者は、製造業では 1.7 %、卸売業・小売業では 2.6 %でそのほとんどは女子である (第 8 表)。

第 8 表 職 種

(%)

		計	技能工・現場作業員	事務員				販売員	その他
				小 計	一般事務	機械事務	不 明		
製 造 業	計	100.0 (1,805)	60.1	29.2	26.8	1.7	0.7	4.2	6.5
	男	100.0 (1,007)	67.8	15.3	14.1	0.7	0.5	7.5	9.4
	女	100.0 (798)	50.4	46.6	42.8	2.9	0.9	0.1	2.9
卸売業・小売業	計	100.0 (1,160)		36.2	32.2	2.6	1.4	49.0	14.8
	男	100.0 (425)		15.5	13.9	0.9	0.7	69.0	15.5
	女	100.0 (735)		48.0	42.7	3.5	1.8	37.5	14.5

(2) 雇用形態

本採用の者が大部分(98.6%)で、臨時・日雇の者は1.3%とごくわずかである。臨時・日雇の者は100人未満の事業所が3~4%でやや割合が高い(第9表)。

第 9 表 雇 用 形 態

(%)

		計	本採用	臨時・日雇	不 明
計		100.0	98.6	1.3	0.1
産 業	製 造 業	100.0	98.8	1.0	0.2
	卸売業・小売業	100.0	98.2	1.7	0.1
規 模	5~29人	100.0	96.0	4.0	—
	30~99人	100.0	96.6	3.0	0.4
	100~999人	100.0	99.3	0.7	—
	1,000人以上	100.0	99.7	0.1	0.2
性	男	100.0	98.0	1.8	0.2
	女	100.0	99.1	0.8	0.1

総理府「労働力調査」(昭和50年)によると、非農林業雇用者に占める臨時雇・日雇の割合は、8.0%(男子5.0%,女子14.4%)で、直接比較できないが、青少年の場合は本採用の割合が高い傾向にあるとみられる。

(3) 勤務形態

日勤が多く約9割で、交替勤務に従事する者は約1割である、交替勤務の形態の内容をみると二交替勤務が多く76.3%,三交替勤務22.0%,その他0.7%となっている。交替勤務に従事する者は製造業に多い。また、事業所規模100人未満では5%前後にとどまっているが、規模100～999人は11.5%,規模1,000人以上は18.3%を占めて多い。性別にみると交替勤務に従事する者の割合は男女でほとんど差がないが、女子の大部分が二交替勤務であるのに対し、男子は半数近くが三交替勤務、その他である(第10表)。

第10表 勤務形態

(%)

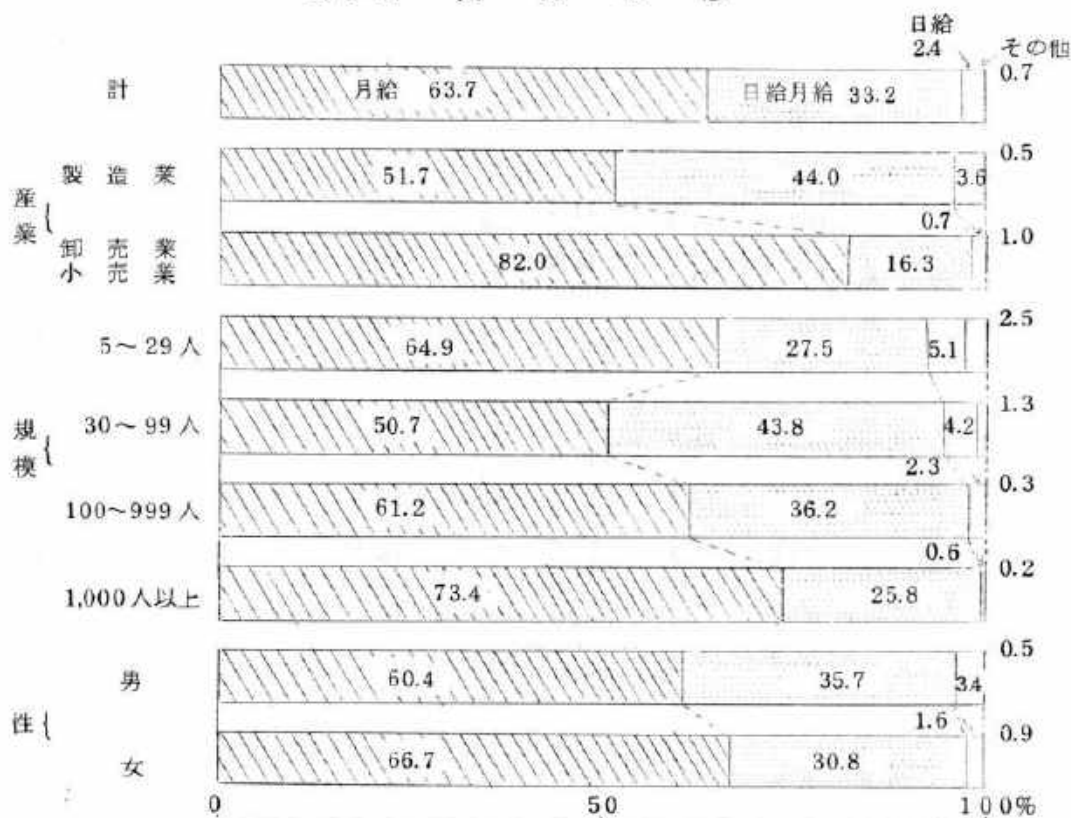
		計	日 勤	交 替 制 勤 務				その他	不 明
				小 計	二交替	三交替	その他		
計		100.0	87.8	11.7 100.0	76.3	22.0	1.7	0.4	0.1
産 業	製 造 業	100.0	84.9	14.7 100.0	73.7	24.8	1.5	0.2	0.2
	卸売業・小売業	100.0	92.3	6.8 100.0	84.8	12.7	2.5	0.8	0.1
規 模	5～29人	100.0	94.0	5.4 100.0	63.2	36.8	—	0.6	—
	30～99人	100.0	94.9	4.3 100.0	87.0	8.7	4.3	0.6	0.2
	100～999人	100.0	87.9	11.5 100.0	81.6	16.9	1.5	0.3	0.3
	1,000人以上	100.0	81.4	18.3 100.0	72.3	26.0	1.7	0.3	—
性	男	100.0	88.3	11.3 100.0	53.7	43.8	2.5	0.3	0.1
	女	100.0	87.4	12.0 100.0	96.2	2.7	1.1	0.5	0.1

労働省「労働時間制度調査」（昭和50年，企業規模30人以上）によると，雇用者に占める交替勤務従事者の割合は，製造業が16.1％（二交替勤務47.5％，三交替勤務46.8％，その他36.7％），卸売業・小売業が4.3％（二交替勤務52.3％，三交替勤務19.1％，その他28.7％）で，参考までに本調査の勤労青少年と比較してみると交替勤務従事者の割合はあまり差がないが，青少年の場合は二交替の割合が高いといえる。

(4) 賃金形態

賃金の形態は月給の者が63.7％，日給月給の者が33.2％，日給の者が2.4％である。月給の者は，卸売業・小売業は約8割，製造業は約5割で，製造業では日給月給の割合が高い。事業所規模別には，1,000人以上では月給の割合が高く，30～99人では月給は5割で日給月給の割合が高い（第5図）。

第5図 賃 金 形 態



労働省「賃金労働時間総合調査」（昭和49年、企業規模30人以上）によると、雇用者の賃金形態は、製造業では、月給が27.7％、日給月給が57.0％、日給が14.7％、出来高払いが0.6％、卸売業・小売業では、同様に58.6％、36.3％、4.0％、1.3％となっている。

直接比較できないが、青少年の場合、先にみたように、臨時・日雇の者はわずかで、本採用が多いこととも関連しているとみられるが、月給の者の割合が高い傾向にあるといえる。

(4) 週休制の形態

勤務している事業所が、週休二日制を採用していると答えた青少年は74.3％で、週休二日制の実施方法別にみると、毎週が30.5％、月3回が5.9％、隔週又は月2回が45.5％、月1回が16.3％、その他が1.8％となっている。週休二日制の適用を受ける者は、製造業約8割に対し、卸売業・小売業は約7割で製造業に割合が高い。また、事業所規模別にみると、5～29人が24.6％、30～99人が49.4％、100～999人が88.3％、1,000人以上が90.1％で規模間の開きが大きい。また、週休二日制の実施方法も、100人未満の事業所では、7割以上が月2回（又は隔週）以下であるのに対し、100人以上の事業所では8～9割が月2回以上で、なかでも1,000人以上では約半数が毎週週休二日制である（第11表）。

第11表 週休制の形態

(%)

	計	週休 1日	週 休 二 日						不 明
			小 計	毎 週	月3回	隔週又は 月2回	月1回	その他	
計	100.0	25.6	74.3 100.0	30.5	5.9	45.5	16.3	1.8	0.1
産 製 造 業	100.0	21.1	78.8 100.0	30.5	6.1	49.2	12.7	1.5	0.1
業 卸売業・小売業	100.0	32.5	67.4 100.0	30.7	5.5	38.7	22.9	2.2	0.1
規 模	5～29人	100.0	24.6 100.0	15.0	1.1	47.1	34.5	2.3	0.3
	30～99人	100.0	49.4 100.0	5.3	0.4	49.2	42.4	2.7	0.2
	100～999人	100.0	88.3 100.0	20.9	7.6	47.9	21.6	2.0	0.1
	1,000人以上	100.0	90.1 100.0	51.2	6.1	41.3	0.2	1.2	—

労働省「労働時間制度調査」（昭和50年，企業規模30人以上）によると，週休二日制の適用を受ける雇用者の割合は，製造業が78.1%，卸売業・小売業が74.6%で，企業規模別（サービス業を除く全産業）には，30～99人が38.4%，100～999人が88.3%，1,000人以上が88.4%となっている。

(6) 1カ月の手取賃金額及び仕送り・家計負担の状況

イ 1カ月の手取賃金額

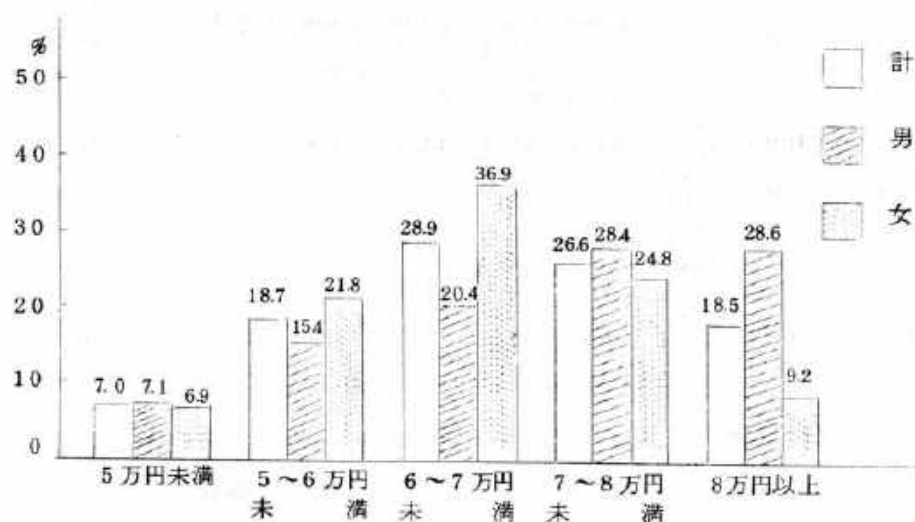
50年10月分の手取賃金額別構成は第12表のとおりで，「6～7万円未満」（28.9%）及び「7～8万円未満」（26.6%）の者が多く，6～8万円の間に過半数が分布している。これを産業別にみると，製造業よりも卸売業・小売業の方が手取賃金額が高額の者が多い。また，事業所規模別にみると賃金額7万円以上の者は，100人未満の事業所では37%であるのに対し，規模100～999人では44.1%，規模1,000人以上は53.5%で高額の者は大規模事業所になるほど多い（第12表）。また，女子よりも男子の方が賃金額の高い者が多く，7万円以上の者は，男子57.0%に対し女子34.0%である（第6図）。

第12表 1カ月の手取賃金額（50年10月分）

（%）

		計	5万円 未 満	5～6万 円 未 満	6～7万 円 未 満	7～8万 円 未 満	8万円 以 上	不 明
計		100.0	7.0	18.7	28.9	26.6	18.5	0.3
産 業	製 造 業	100.0	9.2	19.6	27.8	25.9	17.3	0.2
	卸売業・小売業	100.0	3.6	17.3	30.6	27.6	20.5	0.4
規 模	5～ 29 人	100.0	8.5	23.5	30.3	22.7	15.0	—
	30～ 99 人	100.0	10.7	24.9	27.1	21.5	15.6	0.2
	100～999 人	100.0	5.3	17.8	32.5	26.3	17.8	0.3
	1,000 人以上	100.0	6.4	14.6	25.1	31.1	22.4	0.4

第6図 性別にみた1カ月の手取賃金額(50年10月分)



ロ 仕送り・家計負担の状況

<仕送り>

親元を離れている者のうち、50年10月分の給料から、親・弟妹など家族に仕送りをした者は約2割で、男女ほとんど差がないが、年齢階層別には、15~19才の若年層の方が仕送りをしている割合が高い。仕送り額は、仕送りしている者の半数近くが「1万円以内」で、ついて「1万円をこえて2万円まで」の約3割、2万円以上は約2割である。女子は6割(男子3割)が「1万円以内」であるのに対し、男子は「1万円をこえて2万円以内」が37.4%で最も多く、男子の方が高額仕送りをする者が多い。また、年齢階層別には20~24才の者の方が高額仕送りをしている(第13表)。

第13表 仕送りの有無並びに仕送り額（50年10月分）

親元を離れている者＝100%

		計	仕 送 り を し た							仕送り をしな い	不 明
			小 計	1万円 以 内	1万円 をこえ 2万円 まで	2万円 をこえ 3万円 まで	3万円 をこえ 5万円 まで	5万円 以 上	不 明		
計		100.0	18.9 100.0	45.2	31.3	14.3	5.8	1.1	2.3	80.4	0.7
性	男	100.0	18.9 100.0	30.6	37.4	22.1	7.6	1.5	0.8	80.4	0.7
	女	100.0	19.0 100.0	60.0	25.0	6.3	3.9	0.8	3.9	80.4	0.6
年 令	15～19才	100.0	22.1 100.0	57.0	25.5	12.3	2.6	—	2.6	77.3	0.6
	20～24才	100.0	17.0 100.0	35.8	35.8	15.9	8.3	2.1	2.1	82.3	0.7

＜家計負担の状況＞

一方、親元で生活している者が、自分自身の生活費も含め、50年10月分の給料から家計に入れた者は約7割で、全く家計に入れず自分自身で給料全額を自由にできるとみられる者は約3割である。家計に入れた者は男子がやや割合が高い。また、20～24才の者よりも15～19才の者の方が家計に入れている者が多い。家計に入れた者について、負担額別にみると「1万円以内」（34.7%）と「1万円をこえ2万円以内」（33.4%）が多く約7割が2万円以内であり、2万円以上の高額になるほど割合が低い。家計負担額も高額者は、男子に多く、また20～24才の者に多い（第14表）。

第14表 家計負担の有無並びに負担額（50年10月分）

親元で生活している者＝100%

		計	家 計 に 入 れ た							家計に 入れな かった	不 明
			小 計	1万円 以 内	1万円 をこえ 2万円 まで	2万円 をこえ 3万円 まで	3万円 をこえ 5万円 まで	5万円 以 上	不 明		
計		100.0	69.0 100.0	34.7	33.4	14.1	12.7	4.3	0.8	30.6	0.4
性	男	100.0	70.7 100.0	26.9	31.8	16.5	17.3	6.7	0.8	28.9	0.4
	女	100.0	67.5 100.0	41.6	34.8	11.9	8.6	2.2	0.9	32.0	0.5
年 令	15～19才	100.0	71.4 100.0	36.5	31.6	15.3	12.4	3.1	1.1	27.8	0.8
	20～24才	100.0	67.9 100.0	33.8	34.2	13.5	12.8	5.0	0.7	31.8	0.3

(7) 経済不況の影響

経済不況による影響を勤労青少年がどの程度うけているかを事業所の休業状況や残業との関係でみると次のとおりである。

イ 事業所の休業に伴う影響

50年1月～10月までの間に、仕事量の減少や生産調整等による一斉休業や交替休業等事業所の都合により休業したと答えた者は約2割で、その大部分が製造業(28.9%)で、卸売業・小売業は少ない(2.5%)。製造業について事業所規模別にみると、100人未満の事業所は比較的少なく、100人以上の事業所に割合が高くなかでも規模100～999人が35.6%で最も割合が高い。また女子より男子に休業した者が多い。

休業した者の休業日数は「6日以内」が28.7%、「7～15日」が24.3%、「16～30日」が21.8%、「31日以上」が16.1%となっているが、事業所規模別(製造業のみ)にみると、休業者の割合が高い100～999人規模に休業日数の長い者が多く、「31日以上」の休業者が23.8%を占めている。

休業中の賃金は、大部分(95.1%)が支給されているが、「支給されない」と答えた者は2.2%である。支給内訳は、「賃金の100%」支給された者は23.0%で、「賃金の60～100%未満」支給された者が71.0%で多い。これを事業所規模別(製造業のみ)にみると、賃金を100%支給された者は、100～999人の事業所に多く約4割となっている。一方、1,000人以上の事業所では、ほとんどが、支給額「60%以上100%未満」である(第15表)。

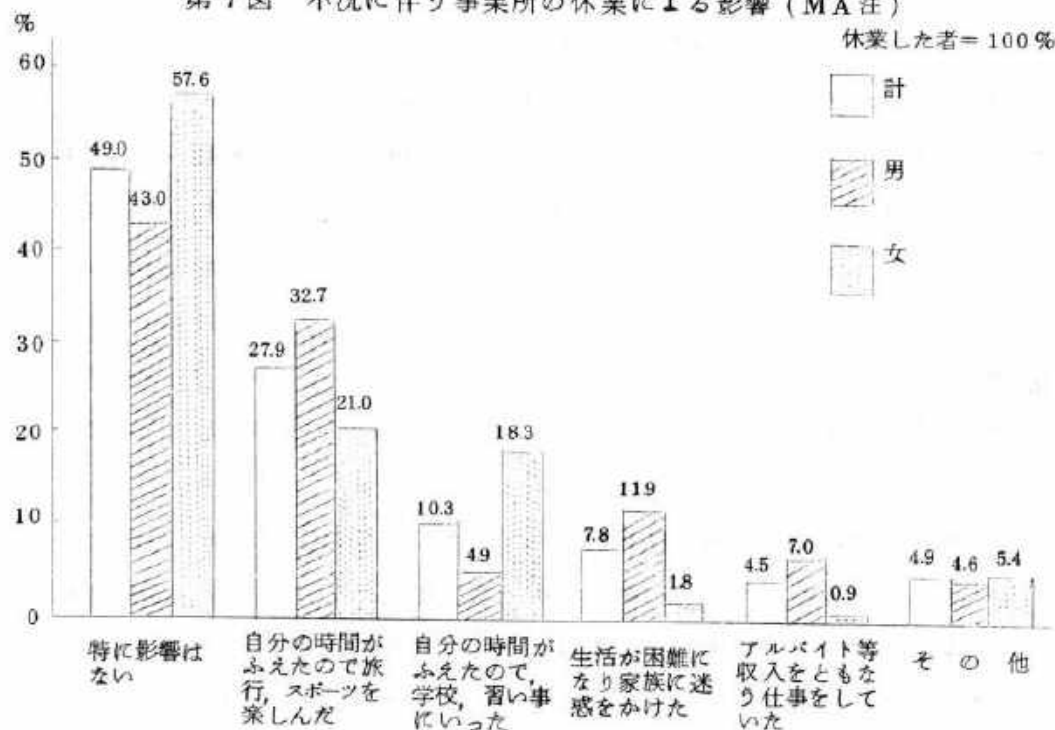
第15表 不況に伴う休業の有無並びに休業日数、休業中の賃金支給状況

%

	計	業 業 し た												な か っ た	不 明		
		休 業 日 数				休 業 中 の 賃 金											
		不明				支 給 さ れ た				支 給 さ れ ない							
		6 日 以 内	7 日 15 日	16 日 30 日	31 日 以 上	小 計	100%	60% 100% 未 満	その他	不明	100%	支 給 さ れ ない	不明				
業 産	計	100.0	18.5 100.0	24.3	21.8	16.1	9.1	95.1	23.0	71.0	0.7	1.4	2.2	2.7	81.0	0.4	
	小 計	100.0	28.9 100.0	24.9	23.0	16.6	7.5	97.5	22.0	74.7	0.4	0.4	0.8	1.7	70.7	0.4	
	製 造	100.0	17.0 100.0	—	42.1	31.6	26.3	—	100.0	26.3	73.7	—	—	—	—	83.0	—
	30～99人	100.0	18.3 100.0	18.2	36.4	30.9	1.8	94.6	27.3	65.5	1.8	—	1.8	3.6	81.7	—	
	100～999人	100.0	35.6 100.0	30.3	16.0	25.4	4.5	97.6	37.3	59.4	0.8	—	0.8	1.6	64.0	0.4	
業 産	1,000人以上	100.0	28.8 100.0	30.4	30.9	17.1	11.3	98.0	2.0	95.5	0.5	—	0.5	1.5	70.6	0.6	
	卸売業・小売業	100.0	2.5 100.0	41.4	13.8	—	6.9	51.7	41.4	3.4	—	6.8	27.6	20.7	97.1	0.4	
性	男	100.0	22.8 100.0	24.5	23.8	17.4	8.9	96.6	20.5	75.2	0.6	0.3	1.2	2.2	76.9	0.3	
	女	100.0	14.6 100.0	24.1	18.7	14.3	9.4	92.8	26.8	64.7	—	1.3	3.6	3.6	84.9	0.5	
居住状況	親 元	100.0	19.1 100.0	22.6	24.6	18.4	7.5	95.7	25.9	69.5	—	0.3	2.0	2.3	80.5	0.4	
	親元を離れている	100.0	18.0 100.0	30.9	26.4	18.3	11.0	94.3	19.5	72.8	0.8	1.8	2.4	3.3	81.6	0.4	

つぎに、不況に伴う休業は「あなたの生活にどんな影響がありましたか」とたずねたところ、「特に影響はない」と答えた者が約半数で最も多く、ついで「自分の時間がふえたので、旅行、スポーツを楽しんだ」（27.9%）、「自分の時間がふえたので学校、習い事に行った」（10.3%）の順で多く、自分自身の生活を楽しんだと答えた者が多いが、「生活が困難になり家族に迷惑をかけた」（7.8%）、「アルバイトなど収入をともなう仕事をしていた」（4.5%）等経済面への影響をあげた者も14.3%みられる。「その他」（4.9%）には、暇をもてあました、生活が乱れた、休業しても仕事量は変わらず労働強化や残業がふえた等があげられている。女子は「影響なし」が約6割で男子より多いが、男子は経済面への影響をあげた者が2割でやや割合が高い（第7図、付表4）。

第7図 不況に伴う事業所の休業による影響（MA注）



注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

ロ 残業減少に伴う影響

50年1月～10月までの間に、仕事量の減少や生産調整等で残業が減少したという者は約2割で、卸売業・小売業（7.3%）よりも製造業（25.8%）に割合が高い。事業所規模別（製造業のみ）にみると残業が減少したと答えた者は100人以上の事業所に割合が高く、うち1,000人以上が約3割で最も多い。また女子よりも男子の方が残業が減少したと答えた者が多い（第16表）。

第16表 不況に伴う残業の変化

(%)

			計	以前と変わらない	したことがないのでわからない	減った	不明
計			100.0	52.9	25.6	18.5	3.0
産 業	製 造 業	小 計	100.0	42.8	28.7	25.8	2.7
		10～29人	100.0	46.4	32.2	21.4	—
		30～99人	100.0	55.7	25.7	16.3	2.3
		100～999人	100.0	42.1	27.3	27.0	3.6
		1,000人以上	100.0	37.6	30.6	29.4	2.4
	卸売業・小売業		100.0	68.5	20.8	7.3	3.4
性	男		100.0	51.5	21.3	24.8	2.4
	女		100.0	54.2	29.2	12.7	3.6
居住状況	親 元		100.0	53.0	25.9	18.0	3.1
	親元を離れている		100.0	52.7	25.2	19.2	2.9

残業が減少したと答えた者について、その影響を、生計面と余暇面に分けてたずねたところ次のとおりであった。生計面では、「貯金等ができなくなった」（37.6%）、「旅行・ドライブ等の回数がへった」（21.3%）等生活の縮小・節約をあげる者が約6割で多いが、「生活が苦しくなった」も約2割みられる。製造業、卸売業・小売業ともに「生活が苦しく

なった」は2割であるが製造業の場合、この他に貯金の減少やドライブ等の回数減をあげる者が多く、生計面への影響が強く出ている。事業所規模別（製造業のみ）にみると、「貯金等ができなくなった」は大規模事業所になる程割合が高く1,000人以上では45.7%である。一方、「生活が苦しくなった」と答えた者は、規模10～29人に割合が高く、37.5%があげている。また、男子の3割（女子1割）が「生活が苦しくなった」と答えている。一方、親元を離れている者のほうに「生活が苦しくなった」者が多い（第17表）。

第17表 不況に伴う残業減少による生計面への影響（MA注）

残業が減少した者＝100%

			計	貯金等 ができ なくな った	学校・習 い事の月 謝が払え なくなり やめてし まった	旅行・ ドライ ブ等の 回数が へった	生活が 苦しく なった	その他	特になし	不 明
計			100.0 (550)	37.6	2.4	21.3	22.5	7.8	10.2	12.5
産 業	製 造 業	小 計	100.0 (466)	38.8	2.8	22.7	22.5	8.2	9.0	10.5
		10～29人	100.0 (24)	25.0	—	20.8	37.5	—	12.5	16.7
		30～99人	100.0 (49)	32.6	6.1	16.3	18.4	4.1	16.3	16.3
		100～999人	100.0 (185)	34.6	2.7	24.3	22.7	11.4	6.5	11.9
		1,000人以上	100.0 (208)	45.7	2.4	23.1	21.6	7.2	9.1	7.2
	卸売業・小売業		100.0 (84)	31.0	—	13.1	22.6	6.0	16.7	23.8
性	男		100.0 (355)	40.8	2.0	26.8	29.6	4.2	7.0	7.9
	女		100.0 (195)	31.8	3.1	11.3	9.7	14.4	15.9	21.0
住 居 状 況	親 元		100.0 (287)	35.2	2.8	23.7	16.7	8.7	9.8	16.7
	親元を離れている		100.0 (263)	40.3	1.9	18.6	28.9	6.8	10.6	8.0

注）多答式のため回答の合計は100%を上回る。

つぎに、残業減少による余暇面への影響についてみると、「時間をもてあます事が多くなった」が最も多く約4割、ついで、「友人等との交際の機会が増えた」(31.3%)、「クラブ活動、趣味文化活動ができるようになった」(16.9%)、「学校、習い事に行けるようになった」(6.0%)等が多い。「その他」(3.3%)には、早く帰宅できくつろげる、低成長時代に入り仕事について考える時間がもてた等があげられている。これを事業所規模別(製造業のみ)にみると、「友人等との交際の機会が増えた」と答えた者は、規模の大きい事業所がやや割合が高く、「クラブ活動、趣味・文化活動ができるようになった」は、規模の小さい事業所がやや割合が高いが、各規模とも“時間をもてあます”と答えた者が最も多く、なかでも100人未満の事業所では半数強で、余暇の活用に問題がみられる。性別には、“時間をもてあます”者は男子に多く、女子は、“友人等との交際の機会が増えた”が約4割で最も多く“時間をもてあます”と答えた者は2割強である(第18表)。

第18表 不況に伴う残業減少による余暇面への影響

残業が減少した者＝100%

		計	学校・ 習い事 に行け るよう になっ た	友人等 との交 際の機 会がふ えた	クラブ活 動、趣味 文化活動 ができる ようにな った	時間をも てあま す事が多 くにな った	アルバイト など収入 を伴う仕 事をした	その他	特に なし	不明
計		100.0	6.0	31.3	16.9	39.5	2.0	3.3	1.8	11.6
業	小計	100.0	6.0	29.2	18.2	42.5	1.9	2.8	2.1	11.2
	10～29人	100.0	—	25.0	20.8	50.0	—	—	—	16.7
	30～99人	100.0	6.1	24.5	22.4	53.1	—	2.0	—	12.2
	100～999人	100.0	6.5	30.3	14.0	38.9	3.2	3.8	2.2	13.0
	1,000人以上	100.0	6.7	29.8	20.7	42.3	1.4	2.4	2.9	8.7
	卸売業・小売業	100.0	4.8	42.9	9.5	22.6	2.4	6.0	—	14.3
性	男	100.0	2.5	27.3	19.4	48.2	2.8	2.0	2.3	8.7
	女	100.0	12.3	38.5	12.3	23.6	0.5	5.6	1.0	16.9
居住状況	親元	100.0	5.2	35.5	15.3	38.0	1.4	2.4	1.7	14.3
	親元を離れている	100.0	6.8	26.6	18.6	41.0	2.7	4.2	1.9	8.7

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る

(8) 職場でのなやみ・不満

イ なやみ・不満の有無と内容

「あなたは、職場でなやみや不満に思っていることがありますか」とたずねたところ、なやみ・不満を持っている者がきわめて多く約8割を占めている(第19表)。

第19表 職場でのなやみ・不満の有無

(%)

		計	あ り	な し	不 明
計		100.0	78.2	21.4	0.4
産 業	製 造 業	100.0	78.4	21.2	0.4
	卸売業・小売業	100.0	77.9	21.6	0.5
規 模	5 ～ 29 人	100.0	69.7	30.0	0.3
	30 ～ 99 人	100.0	81.7	18.1	0.2
	100 ～ 999 人	100.0	80.3	19.1	0.6
	1,000 人以上	100.0	76.9	22.7	0.4
性	男	100.0	76.7	23.0	0.3
	女	100.0	79.7	19.8	0.5
年 令	15 ～ 19 才	100.0	75.6	24.3	0.1
	20 ～ 24 才	100.0	79.6	19.8	0.1

先にみたとおり、勤労青少年が人生の目標に「仕事にうちこむこと」をあげた者は少ないが、職場でのなやみや不満は次のようなものであった。

最も多いのが「給料が安い」(54.1%)で、次に多いのが「上司や同僚との人間関係」(39.2%)で、この二つは、産業、事業所規模、性、年齢等に関係なく最上位を占めている。ついで、「職場の環境、福祉施設が整っていない」(27.7%)、「労働時間が長い、休日が少ない」(25.6%)といった労働条件・職場環境に関するものが続いている。「仕事が単調である」(24.0%)、「自分の能力が仕事に生かせない」(20.6%)、

「昇進の見込がない」(7.4%)等、仕事への意欲や将来への展望に対する不満・なやみを持つ者が相当数あり、これを合わせると52.2%で、仕事に生きがいを見出せない意識の一端がうかがえる。「その他」(3.4%)には終業時間がおそい、休日や労働時間が一般とずれている(以上卸売業・小売業)、労働密度が高い、仕事の責任が重い、疲れる、月給制でない等があげられている。産業別にみると、製造業では「給料が安い」が約6割が多いが、卸売業・小売業では、「給料」とほぼ同比重で「上司や同僚との人間関係」をあげている。給料と人間関係に関するもの以外では、卸売業・小売業では「労働時間が長い・休日が少ない」をあげる者が多く、製造業では、「仕事が単調である」、「自分の能力を仕事に生かせない」等をあげた者が多いが、「不況により仕事がない、量が少ない」、「倒産や不況による人員整理の対象になる」等不況の影響をあげた者も製造業では約15%みられる(第20表)。

また、一般的に、大規模事業所よりも小規模事業所の方が労働条件が劣っているが、労働条件に関するなやみ・不満を持つ者は小規模事業所になるほど多い傾向がみられ、「給料が安い」「職場の環境、福祉施設が整っていない」「労働時間が長い、休日が少ない」等に関するものが多い。一方、「仕事が単調である」や「自分の能力が仕事に生かせない」等仕事の単調感や仕事での自己実現ができないといった不満・なやみを持つ者は、大規模事業所になるほど多い傾向がみられる。また、「人間関係」での不満・なやみも5~29人の小規模事業所及び反対に1,000人以上の大規模事業所において、その割合が高い(第8図、第20表)。

つぎに、性別になやみ不満の内容をみると、男子の6割が「給料が安い」をあげているのに対し、女子は「給料」とともに「上司や同僚との人間関係」を高い割合であげている。また、男子は女子よりも「自分の能力が仕事に生かせない」「昇進の見込がない」をあげる割合がかなり高い。女子は「労働時間が長い、休日が少ない」をあげる者が多い(第9図)。

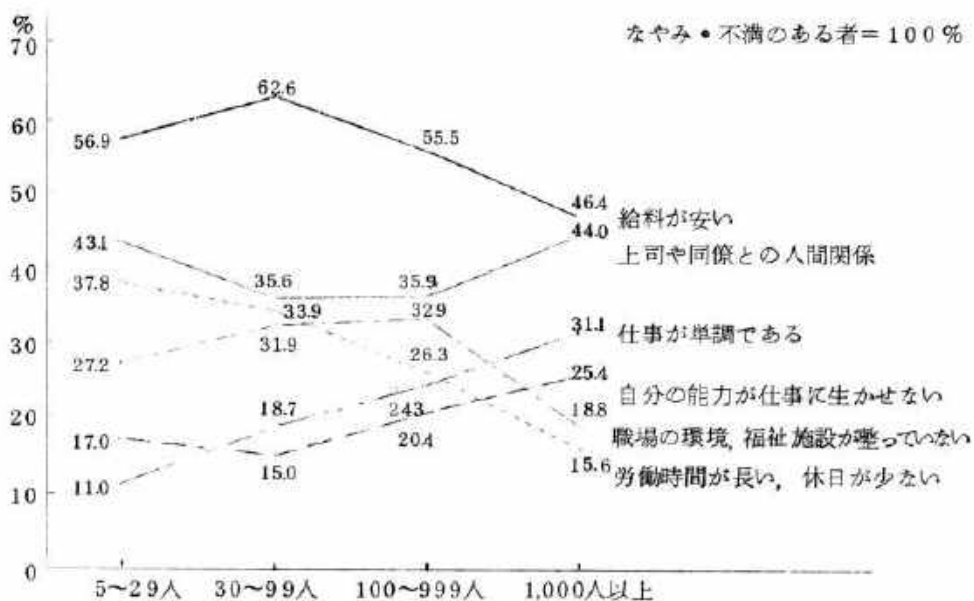
第20表 職場でのなやみ・不満の内容（MA注）

なやみ・不満のある者＝100%

	計	自分の 能力が 仕事に 生かせ ない	仕事が 単調で あ	上司や 同僚と の人間 関係	昇進の 見込み がない	給料が 安い	労働時 間が長 い、休 日が少 ない	職場の環 境、福祉 施設が整 っていない	不況に より仕 事かな い量な い	倒産や不 況による 人員整理 の対象と なる	その他	不明
計	100.0 (2,319)	20.6	24.0	39.2	7.4	54.1	25.6	27.7	5.9	3.2	3.4	0.6
産 製 造 業	100.0 (1,415)	23.4	25.4	34.4	8.7	57.9	20.3	28.4	9.0	4.7	2.8	0.4
業 卸売業・小売業	100.0 (904)	16.3	21.8	46.6	5.3	48.2	34.0	26.5	0.9	0.9	4.3	1.0
規 模												
5～29人	100.0 (246)	17.0	11.0	43.1	6.5	56.9	37.8	27.2	4.1	0.8	5.3	—
30～99人	100.0 (433)	15.0	18.7	35.6	7.9	62.6	33.9	31.9	4.8	1.4	2.1	—
100～999人	100.0 (911)	20.4	24.3	35.9	6.6	55.5	26.3	32.9	5.6	3.4	2.4	0.9
1,000人以上	100.0 (729)	25.4	31.1	44.0	8.4	46.4	15.6	18.8	7.4	4.8	4.8	0.8
年 15～19才	100.0 (764)	22.1	24.6	39.3	8.2	53.9	29.6	22.8	4.8	2.7	3.3	0.7
令 20～24才	100.0 (1,555)	19.9	23.7	39.1	6.9	54.2	23.7	30.1	6.4	3.4	3.5	0.6

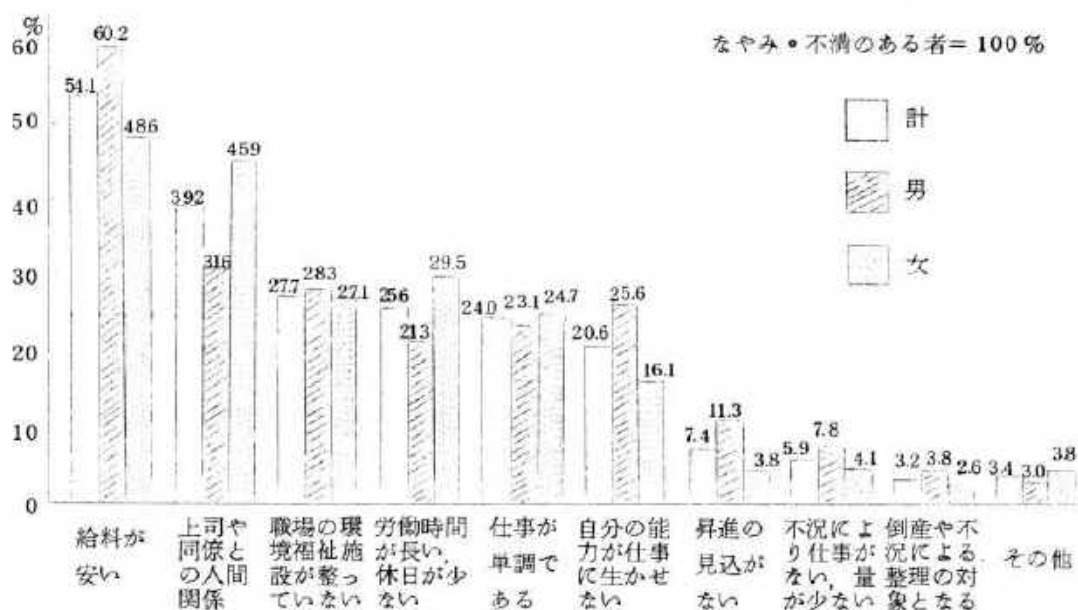
注）多答式のため回答の合計は100%を上回る。

第8図 規模別にみた職場でのなやみ、不満の内容（主要なもののみ、MA注）



注) 多答式のため回答の合計は100を上回る。

第9図 性別にみた職場でのなやみ、不満の内容（MA注）

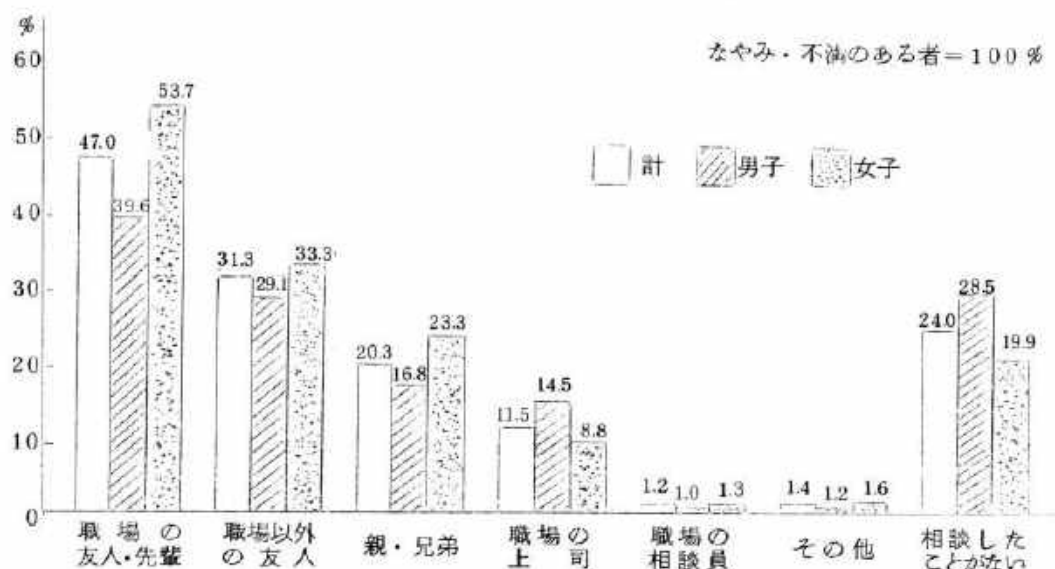


注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

ロ. なやみ・不満の相談相手

「なやみ・不満について誰かに相談しましたか」とたずねたところ、相談した者が多く73.6%で、相談したことがないと答えた者は24.0%である。相談相手は、「職場の友人・先輩」(47.0%)や「職場以外の友人」(31.3%)が多く、ついで、「親・兄弟」(20.3%)となっており、「職場の上司」(11.5%)や「職場の相談員」(1.2%)等は少ない。「その他」(1.4%)には学校時代の教師、従業員会、労働組合などがあげられている。性別にみると、なやみ・不満を相談した者は女子がやや割合が高い(男子70.3%、女子76.6%)。相談相手の順位は、男女とも「職場の友人・先輩」、「職場以外の友人」、「親・兄弟」「職場の上司」となっているが、男子の場合、「職場の上司」に相談した者の割合がやや高い(第10図、付表5)。

第10図 職場でのなやみ・不満の相談の有無並びに相談相手



注) 相談相手は多答式のためその合計は小計を上回る。

(9) 職場への定着状況と定着意識

1. 勤続年数

勤労青少年の7割近くが勤続3年未満で、勤続年数の伸びとともに、そ

の割合は低下している。規模別には、5～29人規模で、「3年未満」の者の割合がやや高いが、30人以上ではほとんど差がみられない。また、男子よりも女子の方が勤続の短い者の割合が高い（第21表）。

第21表 勤 続 年 数 (％)

		計	3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 7年未満	7年以上	不 明
計		100.0	66.0	21.0	9.6	3.2	0.2
規 模	5～29人	100.0	71.9	17.3	8.5	2.3	—
	30～99人	100.0	63.2	23.0	10.0	3.6	0.2
	100～999人	100.0	65.6	20.7	9.5	4.1	0.1
	1,000人以上	100.0	65.7	21.8	9.9	2.3	0.3
性	男	100.0	64.0	21.4	10.8	3.7	0.1
	女	100.0	67.9	20.7	8.5	2.7	0.2

ロ. 転職状況

α. 転職の有無と回数

「ここは学校卒業後最初の勤め先ですか」とたずねたところ、「最初の勤め先」と答えた者が多いが、「転職した」と答えた者は15.5％で、そのうち現在の勤め先が「2回目」が10.9％、「3回目」が3.3％、「4回目以上」が1.1％で、転職した者のなかでは2回目の者が多い。産業別には、製造業よりも卸売業・小売業に転職経験者が多く約2割である。事業所規模別には、大規模事業所になるほど最初の勤め先の者が多く、反対に小規模事業所になるほど転職経験者が多い。特に規模5～29人では、36.8％が転職経験者でかなり多く、そのうち、現在の勤め先が3回目以上の者が12.3％みられ、転職を重ねている者が多い。性別には、男子に転職経験者がやや多い（第22表）。

第22表 転職の有無並びに転職回数

(%)

	計	最初の 勤め先	転 職 し た					不 明
			小 計	2回目	3回目	4回目 以上	不 明	
計	100.0	84.3	15.5	10.9	3.3	1.1	0.1	0.2
産 業								
製造業	100.0	87.4	12.4	8.7	2.4	0.7	0.1	0.2
卸売業・小売業	100.0	79.4	20.4	14.4	4.7	0.6	0.1	0.2
規 模								
5～29人	100.0	63.2	36.8	23.8	10.5	2.3	—	—
30～99人	100.0	79.4	20.4	14.7	3.8	1.9	0.1	0.2
100～999人	100.0	85.5	14.4	10.1	3.0	1.1	0.1	0.1
1,000人以上	100.0	93.4	6.2	5.0	0.8	0.3	0.1	0.4
性 別								
男	100.0	85.6	14.1	9.4	3.2	1.5	0.1	0.3
女	100.0	83.1	16.8	12.4	3.5	0.8	0.1	0.1

6. 転職の理由

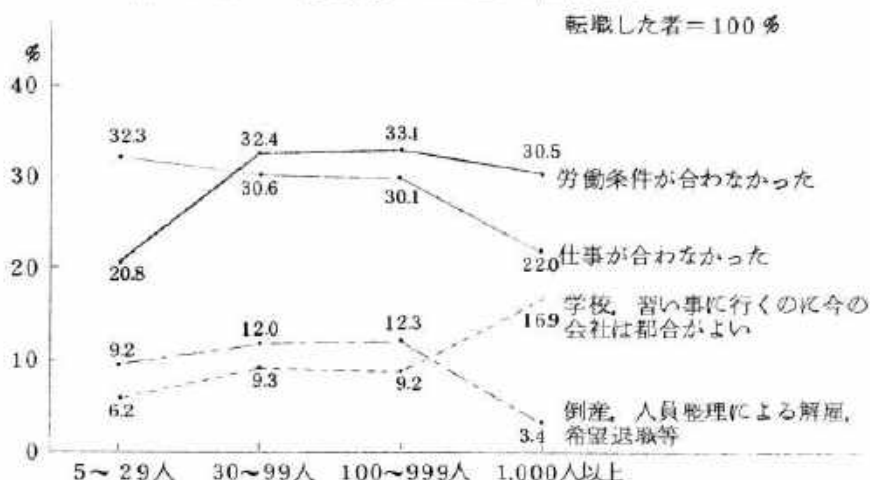
次に、転職した者に対して、「前の会社をやめたのはなぜですか」とたずねたところ、「仕事が合わなかった」、「労働条件が合わなかった」が各々3割を占め、主要な理由となっている。また「倒産・人員整理による解雇・希望退職等」と答えた者が1割みられる。その他「学校・習い事に都合が悪いから」(9.3%)や「現在の会社にさそわれて」(3.5%)、「福祉施設が整っていない」(3.5%)等となっている。「その他」(21.1%)には、家庭の事情と職場の人間関係をあげている者が多いが、それ以外では通勤時間が長い、会社の将来性、他の会社に勤めてみたかった等があげられている。

産業、事業所規模、性に関係なく、“仕事”及び“労働条件”が合わないが転職の主要理由になっているが、産業別には、製造業では、後者の方がやや割合が高く、卸売業、小売業は前者の方が割合が高い。

転職理由を事業所規模別にみると、第11図のとおりで、転職の主要理由である仕事と労働条件についてみると、以前の事業所を「仕事合わない」を理由に退職した者は1,000人以上の事業所に割合が低く、反対

に、「労働条件が合わない」を理由に退職した者は、5～29人の事業所に割合が低い。このほか学校、習い事に行くために以前の事業所を退職した者は1,000人以上の事業所に多い。また、倒産・人員整理等による退職は、1,000人未満の事業所でやや割合が高い(第23表)。

第11図 規模別にみた主な転職理由^{注)}



注) 二つ以上あげたものがあるため回答の合計は100%を上回った。

ハ. 勤務継続意志

「あなたは、現在の会社で今後も働きたいですか」とたずねたところ、近い将来又はいずれやめたいと考えている者が約半数で、うち16.5%は「近い将来やめたい」と答えている。一方、「将来もずっと続けたい」は15.3%で、勤務継続意志を持つ者は少数で、残りの36.3%は継続するかどうか「わからない」と答えている。製造業と卸売業・小売業を比べてもほとんど差はみられないが、製造業に働く者の方がやや勤務継続意志を持つ者が多い。事業所規模別には、「将来もずっと続けたい」は規模5～29人、規模1,000人以上で2割に近くやや割合が高いが、「近い将来やめたい」は規模が大きくなるに従い、徐々に割合が高まっている(第24表)。つぎに男子と女子を比べると勤務継続意志がかなり相違している。「将来

第23表 転 職 の 理 由 (注)

転職した者=100名

	計	労働条件が 合わなかった	仕事が合わ なかった	学校、習い事に 行くのに今の会 社が都合が良い	福祉施設が 整っていない	現在の会社 にさそわれ て	創産、人員整 理による解雇、 希望退職等	その他	不明
計	100.0 (460)	29.1	29.8	9.3	3.5	3.5	10.2	21.1	0.2
産 製 造 業	100.0 (223)	29.6	27.4	13.0	4.0	3.1	12.1	18.4	0.2
業 卸売業・小売業	100.0 (237)	28.7	32.4	5.9	3.0	3.8	8.4	23.6	0.2
規 模	5～29人	20.8	32.3	6.2	2.3	3.8	9.2	24.6	-
	30～99人	32.4	30.6	9.3	0.9	3.7	12.0	20.4	0.2
	100～999人	33.1	30.1	9.2	4.9	3.1	12.3	17.2	0.1
	1,000人以上	30.5	22.0	16.9	6.8	3.4	3.4	25.4	0.4
性	男	28.2	30.2	7.4	3.5	6.4	9.4	21.3	0.3
	女	29.8	29.2	10.9	3.5	1.2	10.8	20.9	0.1

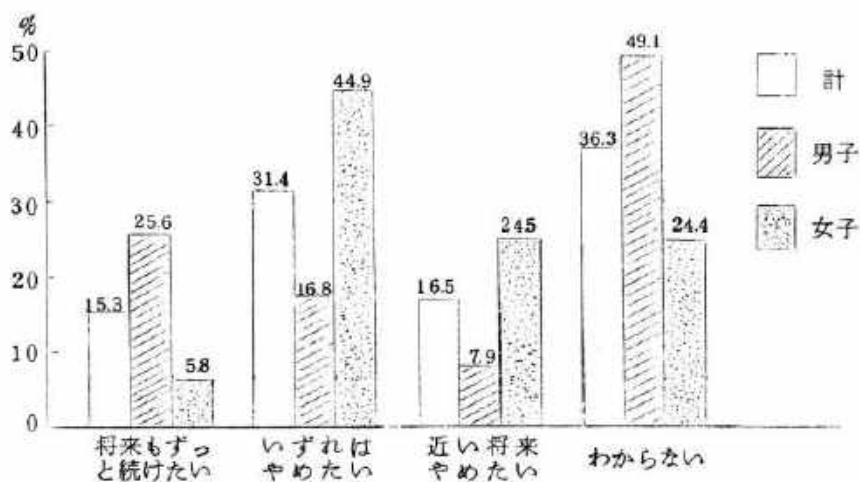
(注) 2つ以上あげた者がいるため回答の合計は100名を上回る。

もずっと続けたい」は男子25.6%に対し、女子5.8%と少なく、一方、近い将来又はいずれやめたいという者は女子67.4%（男子25.7%）で、うち「近い将来やめたい」は24.4%（男子7.9%）となっており、女子の場合、結婚による退職を想定している者がかなり多いとみられる。男子の場合、やめたいという意識を持つ者は少ないが、「わからない」が約半数で多い（第12図）。

第24表 勤 務 継 続 意 志

		計	将来もずっと続けたい	いずれはやめたい	近い将来やめたい	わからない	不 明
計		100.0	15.3	31.4	16.5	36.3	0.5
産 業	製 造 業	100.0	17.8	31.0	15.4	37.2	0.4
	卸売業・小売業	100.0	14.4	32.0	18.1	34.9	0.6
規 模	5 ～ 29 人	100.0	18.7	30.3	13.0	37.8	0.3
	30 ～ 99 人	100.0	15.3	26.2	14.5	43.8	0.2
	100 ～ 999 人	100.0	11.7	34.8	16.9	36.2	0.4
	1,000 人 以 上	100.0	18.5	30.5	18.2	31.9	0.9
年 令	15 ～ 19 才	100.0	14.5	34.6	16.0	34.4	0.5
	20 ～ 24 才	100.0	15.8	29.7	16.7	37.3	0.5

第12図 性別にみた勤務継続意志



4. 余暇生活

(1) 平日の余暇

調査日前1週間における平日の余暇の過ごし方、余暇を過ごした場所、相手（通学等を除く）について、主なものの三つ位までをあげてもらったところ次のとおりであった。

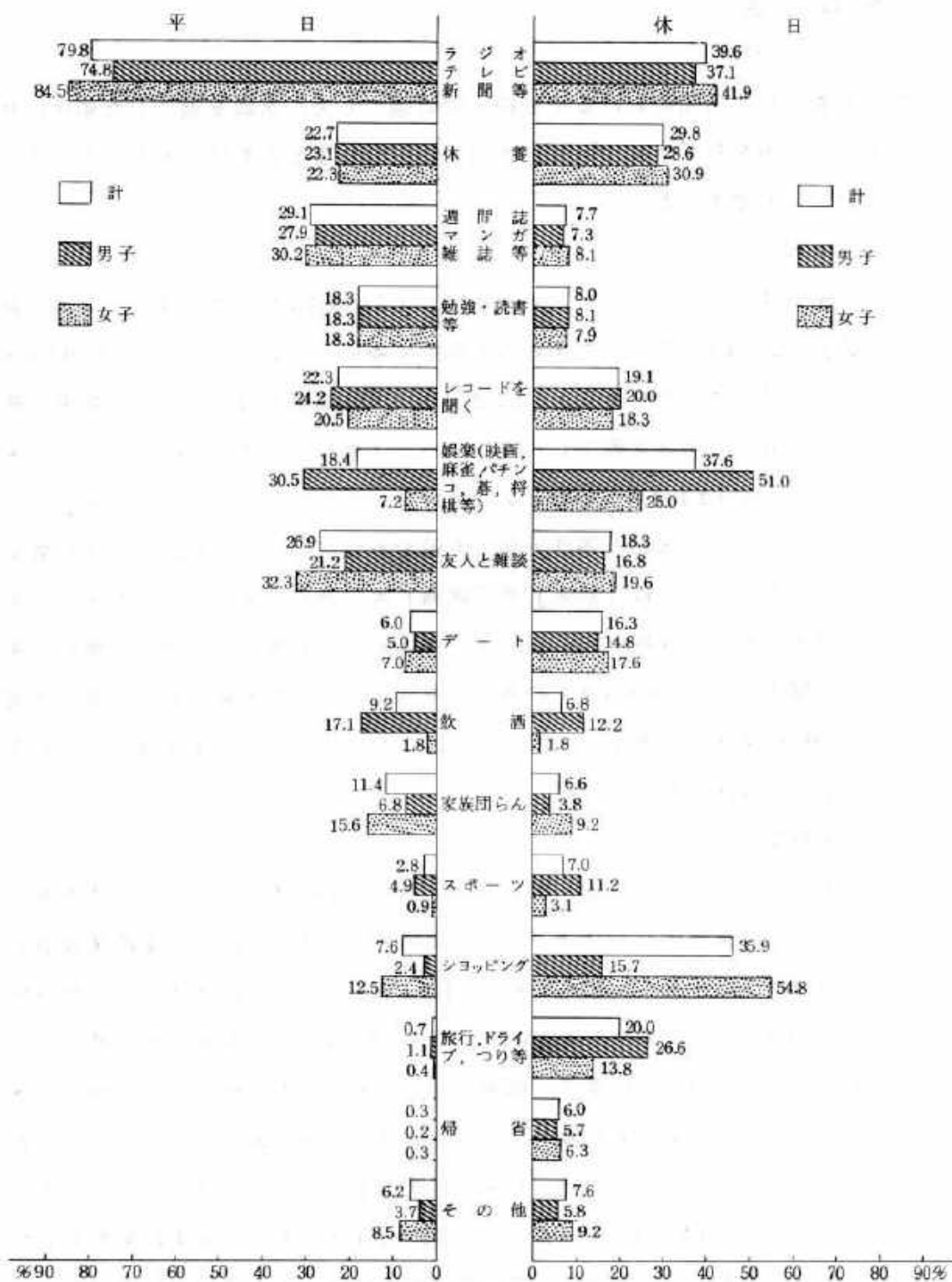
イ. 余暇の過ごし方

平日は、「ラジオ・テレビ・新聞」（79.8%）や「週刊誌・マンガ・雑誌」（29.1%）等で過ごす者が圧倒的に多い。ついで「友人と雑談」（26.9%）, 「レコードをきく」（23.2%）, 「休養」（22.7%）, 「娯楽（映画、麻雀、パチンコ等）」（18.4%）, 「勉強・読書」（18.3%）, 「家族団らん」（11.4%）の順となっている。「ラジオ・テレビ・新聞」や「週刊誌・マンガ・雑誌」等は男女とも最も割合が高いが、特に、女子に著るしい。また、男子は「娯楽」や「飲酒」等で過ごす者が多く、女子は「友人と雑談」, 「家族団らん」, 「ショッピング」等で過ごす者が多い。年齢階層別には、15～19才の者に「週刊誌・マンガ・雑誌」等で過ごす者が20～24才の者を上回っているが、これ以外では大きな相違はみられない（第13図、付表6）。

ロ. 余暇をすごした場所

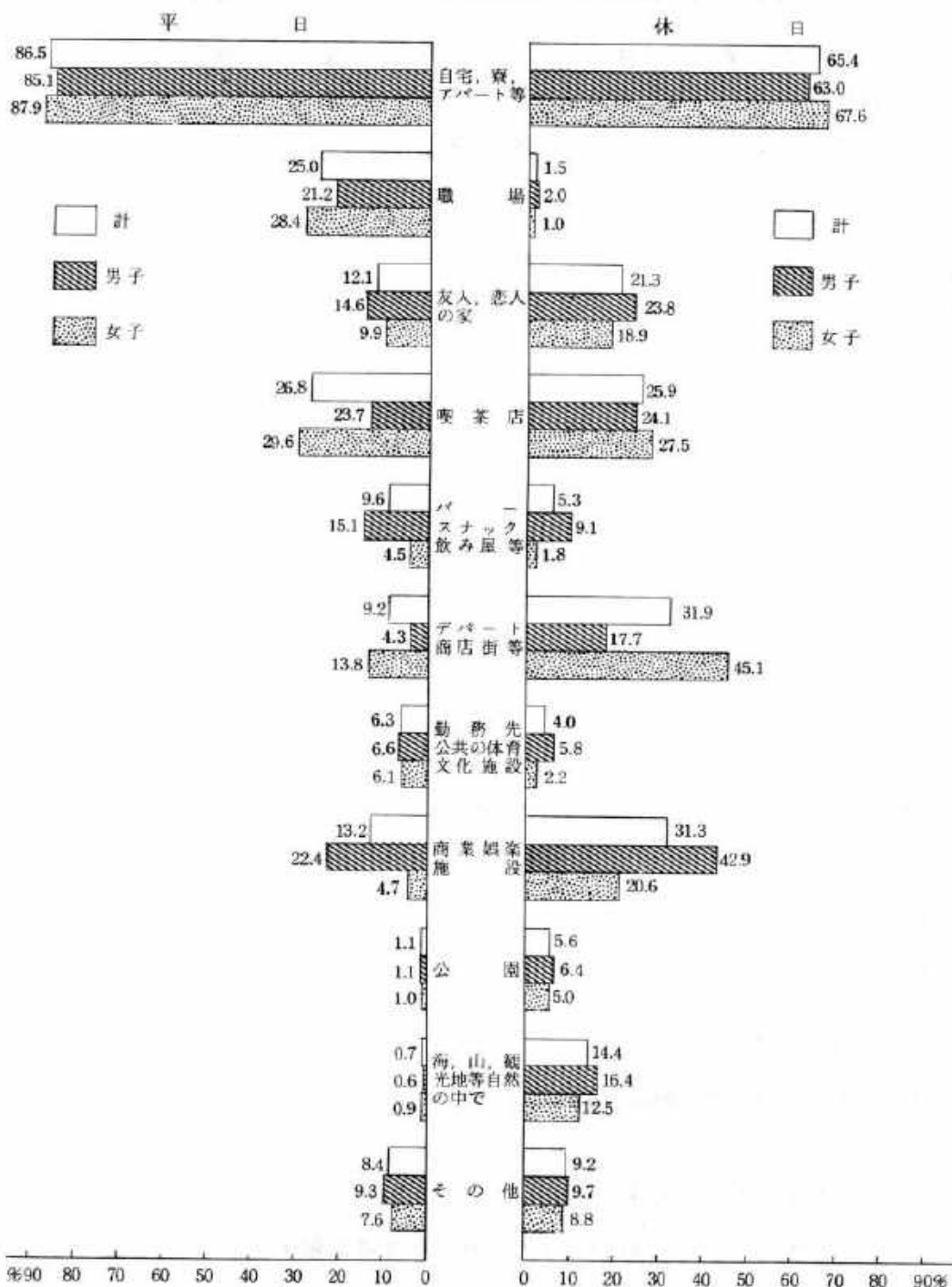
平日にはやはり「自宅・寮・アパート等」（86.5%）で過ごす者が多い。ついで、「喫茶店」（26.8%）, 「職場」（25.0%）, 「商業娯楽施設」（13.2%）, 「友人・恋人の家」（12.1%）, 「バー、スナック、飲み屋等」（9.6%）, 「デパート・商店街等」（9.2%）, 「勤務先・公共の体育・文化施設」（6.3%）の順で、職場で過ごす者もかなりみられる。性別にみると男子は「商業娯楽施設」や「バー・スナック・飲み屋等」で過ごす者が多いが、女子は、「デパート・商店街等」が男子を上回っている。年齢階層別には、15～19才の者に比べ20～24才の者に「商業娯楽施設」や「バー、スナック、飲み屋」で過ごす者が多い（第14図、付表7）。

第13図 平日・休日別余暇の過ごし方 (MA注)



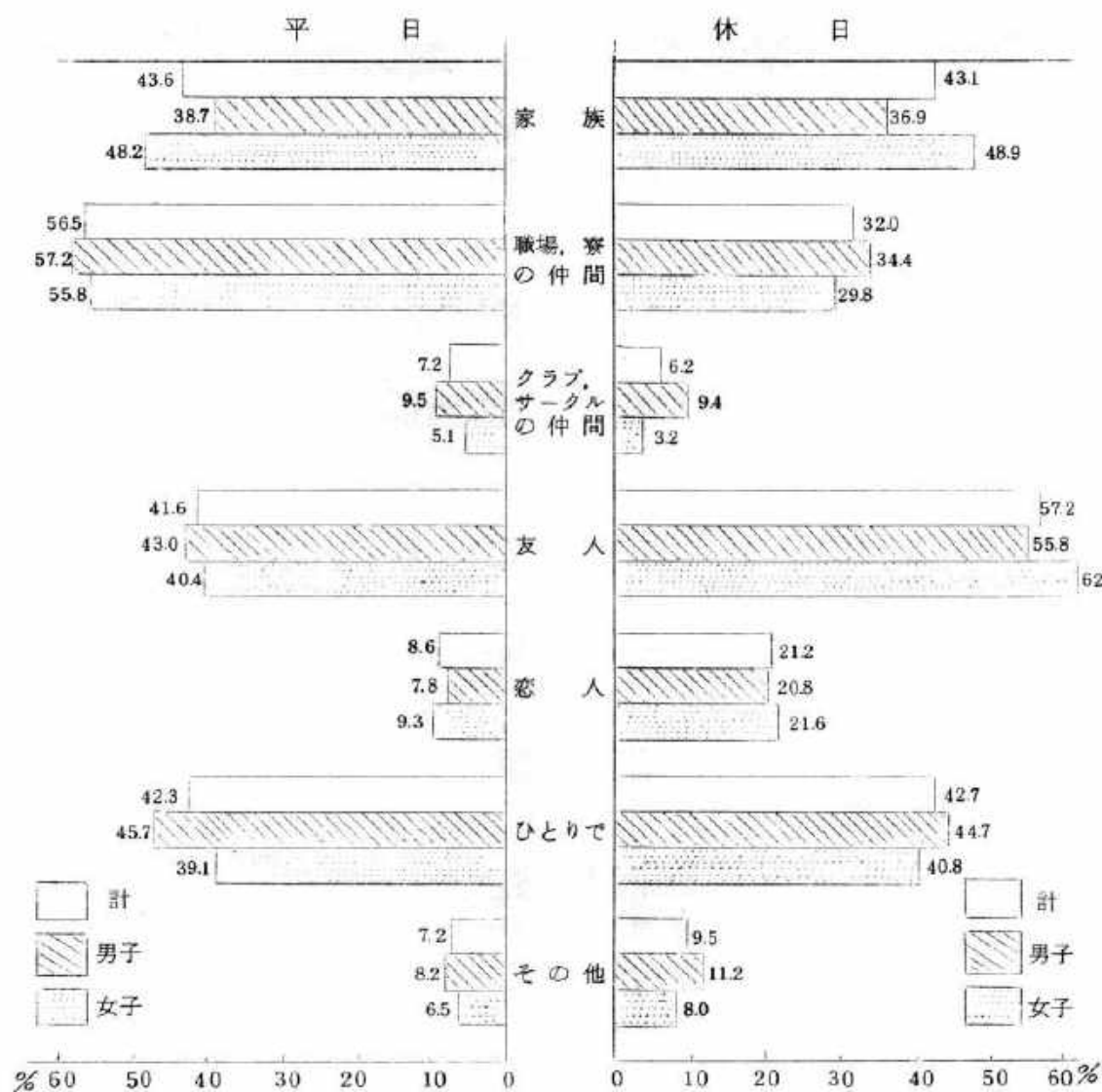
注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

第14図 平日・休日別余暇を過ごした場所 (MA注)



注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

第15図 平日・休日別余暇をすごした相手（MA注）



注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

ハ. 余暇を過ごした相手

「職場・寮の仲間」(56.5%)と過ごした者が最も多く、ついで、「家族」(43.6%)、「ひとりで」(42.3%)、「友人」(41.6%)の順で、家族よりも職場・寮の仲間や友人と過ごす者がかなり多い。また、寄宿舍・寮・

アパート等に居住する者が多いためか、「ひとりで」と答えた者も目立っているが、多答式のため余暇時間の全部を「ひとりで」過ごしているとは限らない。以上四者に比べると、「恋人」(8.6%)や「クラブ・サークルの仲間」(7.2%)等と過ごす者は少数である。

性別にみると、「家族」と過ごす者は女子に多く、男子は「ひとりで」が職場・寮の仲間について多い。年齢階層別には、15～19才の者に職場・寮の仲間と過ごす者が特に多い(第15図、付表8)。

(2) 休日の余暇

平日同様調査日直前の休日の余暇の過ごし方、余暇を過ごした場所、相手について、主なものを三つ位あげてもらったところ次のとおりであった。

イ. 余暇の過ごし方

平日同様「ラジオ・テレビ・新聞等」(39.6%)で過ごす者が最も多いが、平日よりはかなり割合が低い。性別にみると男子は「娯楽」で、女子は「ショッピング」で過ごす者が各々半数強で最も多い。また平日に比べると、「旅行、ドライブ、釣り等」(20.0%)や「デート」(16.3%)等で過ごす者が増え、「友人と雑談」(18.3%)、「勉強・読書等」(8.0%)、「週刊誌・マンガ・雑誌等」で過ごす者が平日より減少している。「スポーツ」(7.0%)をする者は、平日よりは多いが、全体の割合は低い。

性別にみると、「旅行・ドライブ・釣り等」や「スポーツ」で過ごす者が、男子にやや多い(第13図、付表6)。

ロ. 余暇をすごした場所

休日であっても「自宅・寮・アパート等」(65.4%)で過ごしている者が多いが、平日に比べると、「デパート商店街等」(31.9%)、「商業娯楽施設」(31.3%)、「友人・恋人の家」(21.3%)、「海・山・観光地等自然の中で」(14.4%)等で過ごす者が増えている。また、「喫茶店」(25.9%)は、平日・休日ともかなり利用されているが、「勤務先・公共の文化・体育施設」(4.0%)は平日より減少している。性別にみると、男子は「商業娯楽施設」が、女子は「デパート・商店街等」が「自宅・寮・

アパート等」について多い（第14図、付表7）。

ハ、余暇を過ごした相手

「友人」（57.2％）、「家族」（43.1％）、「ひとりで」（42.7％），「職場・寮の仲間」（32.0％）、「恋人」（21.2％）の順で多く，平日に比べ友人，恋人と過ごす者が増えている。また，平日よりは少ないが職場・寮の仲間と過ごす者もかなり多い。性別にみると，男子は「ひとりで」がやや多く，女子は「家族」と過ごす者が男子より多い。年令階層別には，15～19才の者は，友人や職場・寮の仲間と過ごす者が多いが，20～24才の者は，これ以外に恋人と過ごす者も多い（第15図，付表8）。

(3) クラブ活動，講習講座受講等の状況

イ、クラブ活動の状況

クラブ活動を行っている者は，18.2％で男子より女子がやや割合が高い（第25表）。

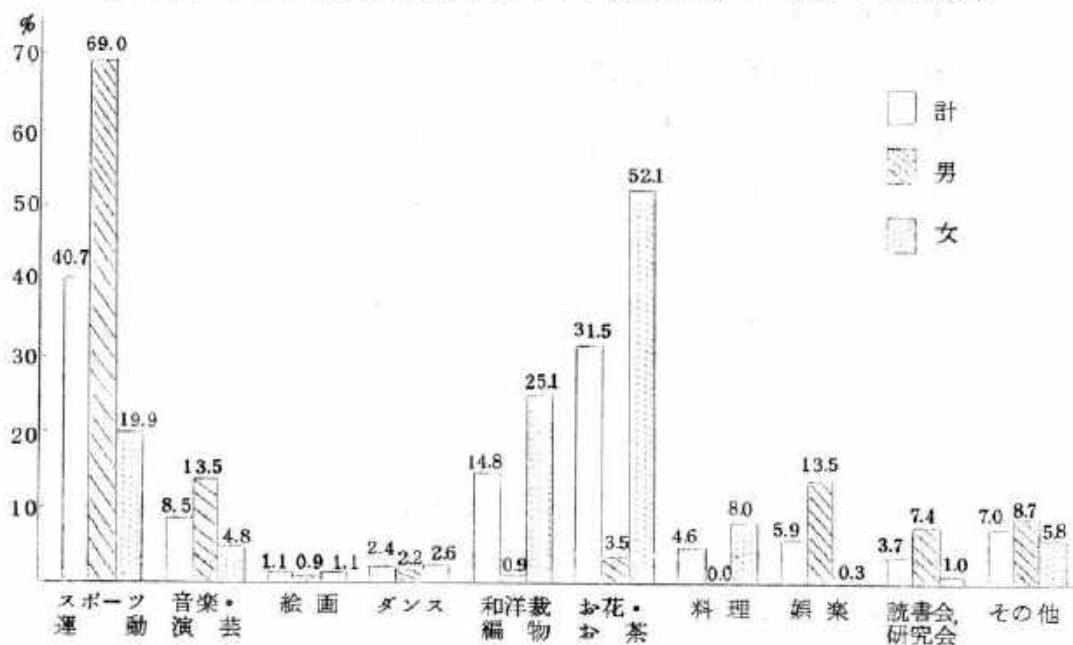
第25表 クラブ活動の有無並びに活動回数

(%)

		計	クラブ活動を行っている	い な い	1人平均1週間の活動回数
計		100.0	18.2	81.8	2.0 ^回
性	男	100.0	16.0	84.0	2.3
	女	100.0	20.3	79.7	1.8
年令	15 ～ 19 才	100.0	16.4	83.6	2.2
	20 ～ 24 才	100.0	19.1	80.9	2.0
居住状況	親 元	100.0	18.7	81.3	1.9
	親元を離れている	100.0	17.6	82.4	2.1
通勤時間	30分まで	100.0 (1,812)	17.7	82.3	2.2
	30分をこえて	100.0			
	1時間まで	(869)	19.7	80.3	1.8
	1時間をこえる	100.0 (276)	16.7	83.3	1.6
	不 明	100.0 (8)	25.0	75.5	1.0

クラブ活動の内容は、「スポーツ・運動」(40.7%)、「お花・お茶」(31.5%)、「和洋裁、編物」(14.8%)等が多い。これを性別にみると、男子は「スポーツ・運動」が7割を占め圧倒的に多い、その他には「娯楽(基・将棋など)」、「音楽・演芸」、「読書会・研究会」等の順であるがその割合は低い。女子は「お茶・お花」が5割を占めて多く、ついで「和洋裁、編物」、「スポーツ・運動」、「料理」の順になっている(第16図、付表9)。

第16図 クラブ活動の内容注(クラブ活動を行っている者=100%)



注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

クラブ活動の1人1週間の平均活動回数は2.0回で、男子2.3回、女子1.8回となっている。また、通勤時間の短い者の方が平均活動回数が多い(第25表)。

さらに、クラブ活動日を「月曜～金曜」と「土曜・日曜」に区分してみると約8割が「月曜～金曜」に行っている。「土曜・日曜」は32.4%で、内容は「娯楽」「音楽・演芸」や「スポーツ」にやや多い(第26表)。

第26表 クラブ活動の内容別活動曜日 (MA注)

クラブ活動を行っている者=100%

	計	月曜～金曜	土曜、日曜	不 明
計	100.0 (540)	83.5	32.4	0.4
スポーツ・運動	100.0 (220)	79.1	42.3	0.5
音楽・演芸	100.0 (46)	65.2	39.1	2.2
絵 画	100.0 (6)	83.3	16.7	—
ダンス	100.0 (13)	76.9	30.8	—
和洋裁、編物	100.0 (80)	95.0	8.8	—
お花・お茶	100.0 (170)	92.4	10.6	—
料理	100.0 (25)	84.0	16.0	—
娯 楽	100.0 (32)	34.4	81.3	—
読書会、研究会	100.0 (20)	60.0	50.0	—
そ の 他	100.0 (38)	76.3	26.3	—

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

ロ. 講習、講座の受講状況

講習、講座等を受講している者は、20.1%で女子が32.7%で多く、男子は6.7%にすぎない。年齢階層別には20～24才の者がやや受講者の割合が高い。また、親元を離れている者よりも親元にいるの方が割合が高い(第27表)。

受講内容は、「和・洋裁、編物」(40.9%)と「お花、お茶」(40.4%)の両者が多いが、男子は「スポーツ・運動」(31.3%)、「音楽、演芸」(22.9%)、「娯楽」(14.6%)、「外国語講座」(14.6%)、「ダンス」(11.5%)等多様であるが、女子は、「和洋裁、編物」(48.1%)、「お花、お茶」(47.5%)、「料理」(11.8%)に集中している(第17図)。

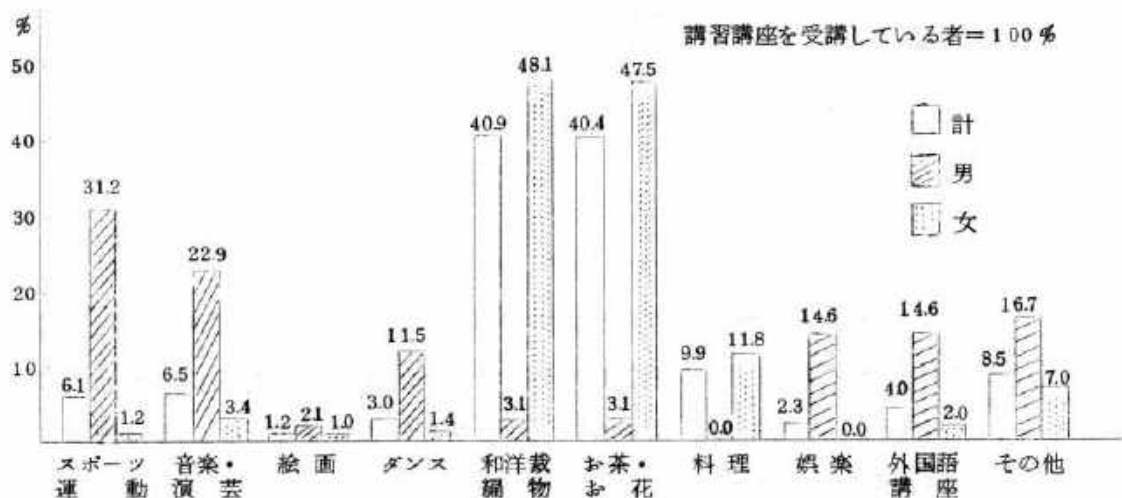
1人平均1週間の受講回数は男女とも2.1回である。通勤時間別にみると30分までの者が最も受講回数が多い(第27表)。

第 27 表 講習、講座の受講の有無並びに受講回数

(%)

		計	講習、講座を受講している	い な い	1人平均1週間の受講回数
計		100.0	20.1	79.9	2.1 回
性	男	100.0	6.7	93.3	2.1
	女	100.0	32.7	67.3	2.1
年 令	15 ～ 19才	100.0	16.6	83.4	2.1
	20 ～ 24才	100.0	22.0	78.0	2.1
居 住 状 況	親 元	100.0	22.4	77.6	2.1
	親元を離れている	100.0	17.5	82.5	2.1
通 勤 時 間	30 分 まで	100.0	18.7	81.3	2.3
	30 分をこえ	100.0	23.9	76.1	1.9
	1 時 間 まで	100.0	18.1	81.9	2.0
	1時間をこえる	100.0	18.1	81.9	2.0

第 17 図 講習、講座の受講内容 (MA注)



注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る

また、受講日は「月曜～金曜」に受講している者が多く約9割で、「土曜・日曜」は23.8%である。クラブ活動同様土曜・日曜の受講内容は「娯楽」

「音楽、演芸」，「スポーツ・運動」がやや割合が高い（第28表）。

第28表 講座の内容別にみた受講曜日（MA注）

受講している者=100%

	計	月曜～金曜	土曜・日曜	不明
計	100.0 (597)	89.6	23.8	0.2
スポーツ・運動	100.0 (36)	80.6	44.4	—
音楽，演芸	100.0 (39)	76.9	33.3	—
絵画	100.0 (7)	100.0	—	—
ダンス	100.0 (18)	88.9	16.7	—
和洋裁，編物	100.0 (244)	96.3	11.9	—
お花，お茶	100.0 (241)	83.4	21.2	—
料理	100.0 (59)	83.1	16.9	—
娯楽	100.0 (14)	57.1	50.0	—
外国語講座	100.0 (24)	75.0	25.0	4.2
その他	100.0 (51)	84.3	27.5	—

注）受講曜日が重複している者がいるため回答の合計は100%を上回る。

ハ. 通学等の状況

クラブ活動や講習・講座の受講の他余暇に「学校」（夜間定時制高校，夜間短大・大学等）に通学している者は8.6%「その他」の活動をしている者は3.0%である。通学者の割合は男女では差がないが，年齢階層別には15～19才の若年層に割合が高い。また親元を離れている者の方がやや割合が高い。通勤時間との関係でみると，通勤時間の短い者ほど通学者の割合が高い（第29表）。

第29表 通学者等の割合

%

		学 校 通 学 (定時制高校, 夜間短大, 大学)	そ の 他 の 活 動 (労働組合, 自 治会活動など)
計		8.6	3.0
性	男	8.8	3.8
	女	8.4	2.3
年 令	15 ～ 19才	17.3	2.4
	20 ～ 24才	4.1	3.3
居状 住況	親 元	4.6	2.7
	親元を離れている	13.3	3.4
通 勤 時 間	30 分 ま で	10.8	3.0
	30 分 を こ え		
	1 時 間 ま で	5.6	2.8
	1 時 間 を こ え る	3.3	3.3
	不 明	12.5	12.5

(4) まとまった休暇

イ. まとまった休暇の有無

事業所の休日であるか年次有給休暇であるかを問わず「あなたは、過去1年間に、5日以上まとめて休んだことがありますか(病気で休んだ場合はのぞいてください)」とたずねたところ、「ある」と答えた者は約6割である。これを、休暇内容別にみると、「年末年始」(42.3%)や「夏休み・盆休み」(37.3%)に休んでいる者が多く、「その他」は16.6%である。

産業別にみると5日以上 of 休暇をとった者は、製造業は約7割、卸売業・小売業は約5割で、製造業に割合が高い。また、大規模事業所になるほど休暇をとった者の割合が高く、100人以上の事業所では6割を越えているのに対し、30～99人規模では約5割、5～29人規模では約4割で規模間の差が大きい。これは、事業所の週休二日制採用状況とも関連していると

思われる。性別にみると、休暇をとった者は男子がやや多いが、夏休み、盆休み、年末年始以外では女子がやや上回っている。さらに、親元にいる者と親元を離れている者を比較してみると、休暇をとった者は、後者の方がかなり割合が高い（第30表、第18図）。

第30表 まとまった休暇の有無

(%)

		計	5日以上の休暇あり (注MA)				な し	不 明
			小 計	夏休み・ 盆 休 み	年末年始 休 暇	そ の 他		
計		100.0	60.4	37.3	42.3	16.6	39.4	0.2
産 業	製 造 業	100.0	67.8	42.9	56.0	17.6	32.0	0.2
	卸売業・小売業	100.0	49.0	28.6	21.0	15.1	50.8	0.2
規 模 性	5～29人	100.0	40.2	14.7	26.6	8.2	59.8	—
	30～99人	100.0	50.2	23.4	36.2	9.4	49.8	—
	100～999人	100.0	63.7	41.2	47.4	15.9	35.9	0.4
	1,000人以上	100.0	69.7	48.9	45.5	24.6	30.1	0.2
	男	100.0	62.2	40.4	47.0	14.9	37.6	0.2
	女	100.0	58.8	34.4	37.0	18.2	41.0	0.2
居 住 状 況	親 元	100.0	53.4	27.7	36.1	15.4	46.4	0.2
	親元を離れている	100.0	68.0	48.5	49.6	18.0	31.1	0.2

注) 多答式のため「休暇あり」の回答の合計は小計を上回る。

ロ. まとまった休暇の過ごし方、休暇日数

夏休み・盆休み

5日以上の夏休み・盆休みをとった者を休暇日数別にみると、「5～7日」の者が70.0%、「8～9日」が19.2%、「10日以上」が10.0%で、1人平均休暇日数は7.2日（男子7.3日、女子7.1日）である（第31表）。

第18図 まとまった休暇（5日以上）の有無

計		あり 60.4	なし 39.4
産業	製 造 業	67.8	32.0
	卸売業・小売業	49.0	50.8
規模	5～29人	40.2	59.8
	30～99人	50.2	49.8
	100～999人	63.7	35.9
	1,000人以上	69.7	30.1
性	男	62.2	37.6
	女	58.8	41.0
居住状況	親 元	53.4	46.4
	親元を離れている	68.0	31.1

0 50 100%

第31表 休暇時期別、休暇日数並びに1人平均休暇日数

各休暇をとった者＝100%

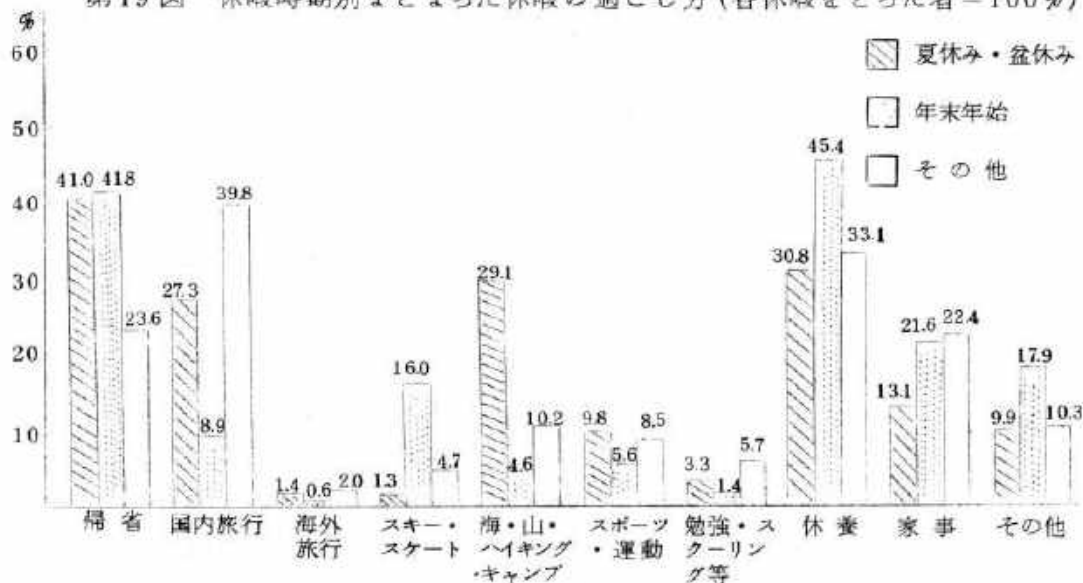
		計	5～7日	8～9日	10日以上	不 明	1人平均 休暇日数
夏盆 休み	計	100.0 (1,107)	70.0	19.2	10.0	0.8	7.2日
	男	100.0 (579)	69.4	18.3	11.8	0.5	7.3
	女	100.0 (528)	70.6	20.1	8.1	1.2	7.1
年末 年始	計	100.0 (1,254)	63.6	24.6	11.1	0.7	7.5
	男	100.0 (673)	64.9	21.3	12.9	0.9	7.7
	女	100.0 (581)	62.1	28.6	9.0	0.3	7.4
そ の 他	計	100.0 (492)	82.5	12.4	19.7	0.2	9.1
	男	100.0 (213)	82.2	13.2	20.2	0.5	9.7
	女	100.0 (279)	82.8	11.8	19.4	—	8.7

休暇の過ごし方は、最も多いのが「帰省」(41.0%)で、ついで「休養」(30.8%)「海・山・ハイキング・キャンプ」(29.1%)、「国内旅行」(27.3%)の順で多い。「海外旅行」(1.4%)で過ごす者もわずかながらみられる。女子に比べると男子は、「海・山・ハイキング・キャンプ」,「スポーツ」等で過ごす者が多く、女子は「家事」が多い。また、親元を離れている者は、「帰省」が約7割を占め多いが、親元にいる者は、「海・山・ハイキング・キャンプ」や「国内旅行」,「休養」等で過ごす者が多い(第32表,第19図,付表13)。

年末年始

5日以上の年末年始休暇をとった者の休暇日数は、「5～7日」が63.6%「8～9日」が24.6%、「10日以上」が11.1%で、1人平均休暇日数は7.5日(男子7.7日,女子7.4日)で、夏休み・盆休みよりやや日数が多い(第31表)。

第19図 休暇時期別まとまった休暇の過ごし方(各休暇をとった者=100%)



第32表 5日以上まとまった休暇の内容並びに使い方(MA注)

各休暇をとった者=100名

	計	帰省	国内旅行	海外旅行	スキー スケート	海 ハイキング キャンプ	スポーツ 運動	勉強 スクーリ ング等	休養	家事	その他	不明
夏盆	100.0	41.0	27.3	1.4	1.3	29.1	9.8	3.3	30.8	13.1	9.9	2.4
休	100.0	38.2	28.8	1.4	1.4	33.5	15.4	4.3	31.1	6.2	11.2	2.3
み	100.0	44.1	25.6	1.3	1.1	24.2	3.6	2.1	30.5	20.6	8.5	2.7
年	100.0	41.8	5.9	0.6	16.0	4.6	5.6	1.4	45.4	21.6	17.9	3.6
末	100.0	42.6	9.8	0.9	19.3	6.8	8.9	1.5	45.8	9.8	18.0	3.7
年	100.0	40.8	7.8	0.3	12.2	1.9	1.7	1.2	44.9	35.3	17.7	3.4
始	100.0	23.6	39.8	2.0	4.7	10.2	8.5	5.7	33.1	22.4	20.3	5.9
そ	100.0	18.3	34.3	0.9	7.5	13.6	14.1	7.0	36.6	19.3	24.4	9.9
の	100.0	27.6	44.1	2.9	2.6	7.5	4.3	4.7	30.5	24.7	17.2	2.9
他												

注) 多答式のため回答の合計は100名を上回る。

休暇の過ごし方は、「休養」(45.4%)、「帰省」(41.8%)、「家事」(21.6%)の順で多く、夏休み・盆休みに比べ休暇の過ごし方がこの三者に集中している。女子は男子に比べ「家事」で過ごす者が多い。また、親元を離れている者は約8割が帰省しており、親元にいる者は、「休養」や「家事」で過ごす者が多いが、「スキー・スケート」「国内旅行」等に出かける者も多い(第32表、第19図、付表13)。

その他

夏休み・盆休み、年末年始以外に5日以上休暇をとった者の休暇日数は、「5～7日」が82.5%、「8～9日」が12.4%、「10日以上」が19.7%で、1人平均休暇日数は9.1日(男子9.7日、女子8.7日)である(第31表)。なお、休暇をとった時期を調査員記載からみると5月、10月、11月等連休や行楽シーズン等が比較的多い。

休暇の過ごし方は、「国内旅行」が約4割を占め最も多い。ついで、「休養」(33.1%)、「帰省」(23.6%)、「家事」(22.4%)の順で多いが、夏、年末に比べ「帰省」はずっと少ない。「国内旅行」は特に女子に多い。また、親元にいる者は、「国内旅行」が5割を占めるが親元を離れている者は、やはり「帰省」が多く約5割で、「国内旅行」がそれに次いでいる(第32表、第19図、付表13)。

(5) 余暇施設の利用状況

調査前1カ月間における余暇施設(勤務先の施設を含み商業娯楽施設はのぞく)の利用状況をみると何らかの施設を利用した者は34.6%で、利用しなかった者が多い。施設を利用した者は、製造業は約4割、卸売業・小売業は約3割で製造業に多いが、事業所規模別には、規模1,000人以上が4割で多い。さらに、性別にみると、男子が4割、女子は3割でかなり差がみられる(第33表)。

第33表 余暇施設の利用状況(%)

		計	利用した	利用しない	不明
計		100.0	34.6	63.6	1.8
産業	製造業	100.0	38.6	60.3	1.7
	卸売業・小売業	100.0	29.2	68.7	2.1
規模	5～29人	100.0	32.3	67.1	0.6
	30～99人	100.0	34.7	64.7	0.6
	100～999人	100.0	29.0	69.1	1.9
	1,000人以上	100.0	42.1	55.1	3.0
性	男	100.0	39.7	58.5	1.8
	女	100.0	29.8	68.4	1.8
年令	15～19才	100.0	35.4	62.8	1.8
	20～24才	100.0	34.2	64.0	1.8

注) 余暇施設には商業娯楽施設は含めていない。

余暇施設の内容別に利用状況を見ると、利用した者が1割を越えているのは、「公園」(13.3%)、スポーツ、運動関係の施設で(「屋外運動場」(9.0%)、
「屋内体育館・体育施設」(8.6%))で、「公民館」、「勤労青少年ホーム、
働く婦人の家」、「福祉会館」「青年の家」などの利用は少ない。「屋内体
育館・体育施設」や「屋外運動場」等スポーツ、運動関係施設は男子の利用
者が多いが、その他の施設は、性、年令による差は特にみられない(第34
表)。

第34表 余暇施設の利用状況 (%)

	計	利用したところがある (MA注)										ない	不明			
		小計	勤労青年ホーム、働く婦人の家	公民館	福祉会館	図書館	屋内体育施設	屋外運動場	美術館・博物館	青年の家	公園			その他		
性	計	100.0	34.6	3.3	4.5	1.8	4.2	8.6	9.0	3.9	1.7	13.3	1.5	0.1	63.6	1.8
	男	100.0	39.7	4.4	5.6	2.2	5.0	11.7	13.6	3.6	2.2	12.8	2.0	—	58.5	1.8
	女	100.0	29.8	2.3	3.5	1.4	3.4	5.8	4.6	4.1	1.2	13.7	1.0	0.1	68.4	1.8
年	15~19才	100.0	35.4	2.5	3.7	1.5	4.5	10.6	8.9	3.5	2.2	14.9	0.9	—	62.8	1.8
令	20~24才	100.0	34.2	3.7	5.0	1.9	4.0	7.6	9.0	4.1	1.4	12.4	1.8	0.1	64.0	1.8

注) 多答式のため「利用したことのある」者の回答の合計は小計を上回る。

(6) 希望する余暇行動、余暇施設

イ. 希望する余暇行動

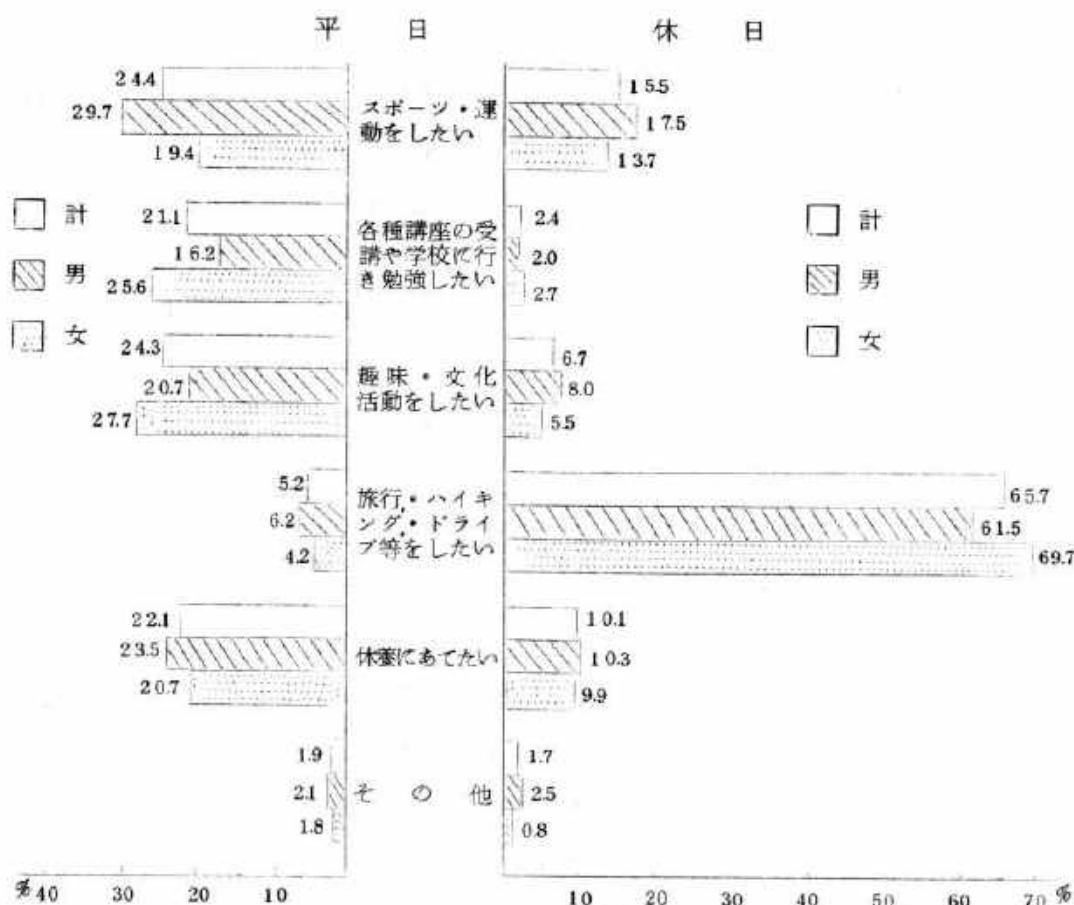
「あなたは、時間、お金、施設などの条件がすべて満たされたならば、余暇に何をしたいと思いますか、最も希望するものを平日、休日別にあげてください」という質問で余暇生活に対する勤労青少年の希望をさぐってみた。

平日には、「スポーツ・運動をしたい」、「趣味、文化活動をしたい」、「休養にあてたい」、「各種講座の受講や学校に行き勉強をしたい」等が各々2割強で、余暇生活に対する希望は多様である。現実の平日における余暇は、前述のとおりラジオ、テレビ、新聞や週刊誌、まんが、雑誌等で過ごす者が圧倒的で、希望とはかなりかけ離れているといえる。余暇生活に対する希望を、性別にみると、男子は「スポーツ・運動をしたい」が約3割で最も多いが、現実には平日スポーツ・運動をしている男子は4.9%（女子0.9%）と少ない。女子は「趣味、文化活動をしたい」や「各種講座の受講や学校に行き勉強したい」という希望をもつ者が多いが、前述のとおり現実にも講習講座を受講している者は男子より女子に多い。

また、年齢階層別には、15～19才では「スポーツ・運動をしたい」という者が最も多いが、20～24才では、「趣味・文化活動をしたい」が最も多くなっている（第20図、付表14）。

一方、休日における希望は「旅行・ハイキング・ドライブ等をしたい」という者が65.7%で圧倒的に多く、これ以外では、「スポーツ・運動をしたい」（15.5%）、「休養にあてたい」（10.1%）がやや多い。現実には、休日に、旅行・ハイキング・ドライブ、釣り等に出かけた者は約2割にすぎず、また、スポーツ・運動を行っている者も7.0%でここでも希望との差がみられる。旅行、ハイキング、ドライブ等は、性、年齢に関係なく、最も希望されている（第20図、付表12）。

第20図 平日、休日別希望する余暇の過ごし方



ロ. 身近に設置を希望する余暇施設

勤労青少年が身近に利用できる余暇施設の設置希望をたずねたところ、希望を持っている者が多く約8割で、先にみたように、余暇施設の利用状況は低い、その要因として身近な余暇施設が足りないといった面も見逃せない。また、身近な余暇施設に対する希望は産業、規模、性、年齢に関係なく非常に割合が高く勤労青少年の余暇生活を希望する余暇生活に近づく上で、余暇施設が重要な役割を担うものと考えられる(第35表)。

第35表 設置を希望する身近かな余暇施設の有無

(%)

		計	あ　　り	な　　し	不　　明
計		100.0	79.4	20.2	0.4
産 業	製　　造　　業	100.0	80.0	19.0	0.3
	卸売業・小売業	100.0	77.4	22.0	0.6
規 模	5～29人	100.0	81.6	17.8	0.6
	30～99人	100.0	80.2	19.4	0.4
	100～999人	100.0	77.2	22.5	0.4
	1,000人以上	100.0	80.8	18.7	0.5
性	男	100.0	79.6	19.8	0.6
	女	100.0	79.2	20.6	0.2
年 令	15～19才	100.0	77.1	22.2	0.7
	20～24才	100.0	80.6	19.1	0.3

つぎに、希望する施設について、該当するもの全部をあげてもらったところ、「安く泊れる宿泊施設」(39.2%)、「娯楽施設」(31.8%)、「総合体育館」(27.4%)、「音楽・演劇等の催場」(27.0%)、「図書館」(20.7%)、「キャンプ場・山小屋など」(20.6%)、「テニスコート」(19.7%)、「卓球場」(16.7%)の順である。特にスポーツ、運動関係施設に対する希望がきわめて強く、上述の「総合体育館」「テニスコート」「卓球場」のほか「グラウンド」(13.3%)「プール」(13.1%)、「バレーコート」(11.3%)、「野球場」(11.1%)があげられている。性別にみると、「安く泊れる宿泊施設」以外では、男子は「総合体育館」等スポーツ、運動に関する施設に対する希望が強く、女子は「音楽、演劇等の催物」等を希望する者が多い(第36表、第21図)。

第37表 身 近 に 設 置 を 希 望 す る 余 暇 施 設
設置を希望している者=100%

	計	バレーコート	テニスコート	野球場	グラウンド	卓球檯	プール	総合体育館	図書館	集会場	美術館	音楽・催物・演劇	各種講座・塾	勤労青年福祉会	1館等総合福祉会	安宿く泊施れる設	キヤンブ小場屋	娯楽施設	その他	不明
	計	100.0 (2,354)	11.3	19.7	11.1	13.3	16.7	13.1	27.4	20.7	4.0	10.5	27.0	12.4	6.6	39.2	20.6	31.8	1.7	0.2
性	男	100.0 (1,140)	10.4	16.4	21.2	20.1	16.4	16.1	35.0	18.4	4.9	9.7	23.6	8.4	7.5	38.7	22.5	35.0	2.4	0.3
	女	100.0 (1,214)	12.1	22.8	1.6	7.0	17.0	10.3	20.4	22.7	3.1	11.3	30.2	16.1	5.8	39.7	18.9	28.8	1.2	0.1
年	15～19才	100.0 (779)	16.4	20.2	10.1	12.2	17.5	13.5	28.8	20.4	3.1	10.0	25.7	8.6	5.7	38.0	22.7	36.2	1.3	0.1
令	20～24才	100.0 (1,575)	8.8	19.5	11.6	13.9	16.3	13.0	26.8	20.8	4.4	10.7	27.7	14.2	7.1	39.8	19.6	29.6	2.0	0.2

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

第21図 身 近 かに 設 置 を 希 望 す る 余 暇 施 設 (注MA)



注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

付 表

付表1 調査対象青少年の性、年齢、学歴別構成

%

		計	性		年 令		学 歴			
			男	女	15～ 19才	20～ 24才	中学卒	高校卒	短大 大学卒	不 明
計		100.0 (2,965)	48.3	51.7	34.1	65.9	24.1	66.4	9.2	0.3
産 業 計	5～29人	100.0 (353)	49.0	51.0	28.9	71.1	27.7	62.6	9.1	0.6
	30～ 99人	100.0 (530)	55.1	44.9	33.4	66.6	29.2	63.8	6.6	0.4
	100～ 999人	100.0 (1,134)	44.2	55.8	33.4	66.6	25.2	65.4	9.1	0.3
	1,000 人以上	100.0 (948)	49.2	50.8	37.2	62.8	18.6	70.3	11.0	0.1
製 造 業	小 計	100.0 (1,805)	55.8	44.2	36.4	63.6	33.2	58.5	8.0	0.3
	10～ 29人	100.0 (112)	72.3	26.7	33.0	67.0	54.5	41.1	4.4	—
	30～ 99人	100.0 (300)	70.3	29.7	35.3	64.7	44.7	50.6	4.0	0.7
	100～ 999人	100.0 (685)	49.2	50.8	35.2	64.8	37.1	54.9	7.6	0.4
	1,000 人以上	100.0 (708)	53.4	46.6	38.6	61.4	21.3	68.1	10.6	—
卸 ・ 小 売 業	小 計	100.0 (1,160)	36.6	63.4	30.5	69.5	9.9	78.6	11.2	0.3
	5～29人	100.0 (241)	38.2	61.8	27.0	73.0	15.4	72.6	11.2	0.8
	30～ 99人	100.0 (230)	35.2	64.8	30.9	69.1	9.1	80.9	10.0	—
	100～ 999人	100.0 (449)	36.5	63.5	30.7	69.3	7.1	81.5	11.4	—
	1,000 人以上	100.0 (240)	36.7	63.3	33.3	66.7	10.4	77.1	12.1	0.4

付表2 親友との主な話題（MA注）

親友がいる者=100%

	計	職場 仕事 のこと	上役の 愚痴 など	異 性の こと	共通の 友人の 消息	一致す る趣味 行動等	将来の 生活 設計	人 生 一 般	その他	不 明
計	100.0 (2,507)	69.0	8.4	56.2	16.0	47.4	18.8	43.3	1.5	1.1
年 15～19才	100.0 (814)	70.3	7.7	59.2	15.2	47.2	16.6	37.4	1.6	1.5
年 20～24才	100.0 (1,693)	68.4	8.7	54.8	16.4	47.4	19.8	46.1	1.4	0.9
居 住 状 況	100.0 (1,384)	69.3	9.5	57.2	16.6	49.0	18.4	42.3	1.3	0.7
親 元	100.0 (1,384)	69.3	9.5	57.2	16.6	49.0	18.4	42.3	1.3	0.7
寄 宿 舎	100.0 (1,123)	68.7	7.0	54.9	15.3	45.3	19.2	44.5	1.7	1.6
ア パ ー ト	100.0 (1,123)	68.7	7.0	54.9	15.3	45.3	19.2	44.5	1.7	1.6

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

付表3 異性の友人並びに恋人の有無

%

		計	注(MA) い る				いない	不 明
			小 計	恋 人	友 人	不 明		
計		100.0 (2,965)	68.8	28.1	45.9	0.7	30.6	0.6
性	男	100.0 (1,432)	66.1	28.5	43.8	0.7	33.4	0.5
	女	100.0 (1,533)	71.2	27.8	47.9	0.7	28.0	0.8
年 令	15～19才	100.0 (1,011)	63.4	21.4	47.2	0.3	36.2	0.4
	20～24才	100.0 (1,954)	71.6	31.6	45.2	0.9	27.7	0.7

注) 複数の異性の友人を持つ者があるため、「いる」の合計は小計を上回る。

付表4 不況に伴う残業

			残 業 減少し た 者 計	生 計 面 へ の 影 響						
				貯金等 ができ なくな った	学校・事 習いの月謝 が払えな くなった	旅行・ド ライ ブ等の回 数がへった	生活が 苦しく なった	その他	特 別 な し	不 明
計			100.0 (550)	37.6	2.4	21.3	22.5	7.8	10.2	12.5
産 業 規 模	製	計	100.0 (466)	38.8	2.8	22.7	22.5	8.2	9.0	10.5
		10～29人	100.0 (24)	25.0	—	20.8	37.5	—	12.5	16.7
	造	30～99人	100.0 (49)	32.6	6.1	16.3	18.4	4.1	16.3	16.3
		100～ 999人	100.0 (185)	34.6	2.7	24.3	22.7	11.4	6.5	11.9
		業	1000人 以 上	100.0 (208)	45.7	2.4	23.1	21.6	7.2	9.1
	卸 小 売	業	100.0 (84)	31.0	—	13.1	22.6	6.0	16.7	23.8
居 住 状 況	親 元	100.0 (287)	35.2	2.8	23.7	16.7	8.7	9.8	16.7	
	寄 宿 舎 ・ 寮 ア パ ー ト 等	100.0 (263)	40.3	1.9	18.6	28.9	6.8	10.6	8.0	

(注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

減少による影響（MA注）

残業が減少した者＝100%

余暇生活への影響							
学校・ 習事に行ける ようになった	友人等 と交際の 機会が増した	クラブ 活動趣味文化 活動が可能になった	時間をもて余 す事が多くなった	アルバイトなど 収入を伴う仕事を した	その他	特 に な し	不 明
6.0	31.3	16.9	39.5	2.0	3.3	1.8	11.6
6.2	29.2	18.2	42.5	1.9	2.8	2.1	11.2
—	25.0	20.8	50.0	—	—	—	16.7
6.1	24.5	22.4	53.1	—	2.0	—	12.2
6.5	30.3	12.0	38.9	3.2	3.8	2.2	13.0
6.7	29.8	20.7	42.3	1.4	2.4	2.9	8.7
4.8	42.9	9.5	22.6	2.4	6.0	—	14.3
5.2	35.5	15.3	38.0	1.4	2.4	1.7	14.3
6.8	26.6	18.6	41.1	2.7	4.2	1.9	8.7

付表5 不況に伴う事業所の休業による影響（MA注）

不況に伴い休業した者＝10.0%

居住状況	産業規模	計	アルバイト等収入をともなう仕事をしていた	生活が困難になり家族に迷惑をかけた	寄宿舎・寮が閉ざされ困った	学校・習い事が続けられなくなった	自分の時間かふえたので学校・習い事を	自分の時間かふえたので旅行・スポーツを	その他	特に影響はない	不明
産業規模	計	100.0 (551)	4.5	7.8	0.2	0.4	10.3	27.9	4.9	49.0	4.5
		小計	4.5	8.0	0.2	0.4	10.5	28.5	5.2	48.5	4.0
		10～29人	—	5.3	—	5.3	10.5	10.5	5.3	63.2	5.3
		30～99人	9.1	9.1	—	—	9.1	34.5	3.6	47.3	1.8
		100～999人	6.1	9.0	—	—	6.6	28.3	4.1	50.4	4.5
		1,000人以上	2.0	6.9	0.5	0.5	15.7	28.9	6.9	45.1	3.9
居住状況	卸売・小売業	100.0 (29)	3.4	3.4	—	—	6.9	17.2	—	58.6	13.8
		親元	5.5	8.9	—	0.3	9.8	30.5	3.6	48.5	3.6
		親元を離れている	3.3	6.5	0.4	0.4	11.0	24.8	6.5	49.6	5.7

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

付表 6 職場におけるなやみ・不満について相談したことの有無並びに相談相手

なやみ・不満のある者=100%

	不 な 多	清 や み 計	相 談 し た こ と が あ る 注 (MA)							な い	不 明
			小 計	職 場 の 上	職 場 の 相 談 負	職 場 の 友 人 先 輩	職 場 以 外 の 友 人	親 兄 弟	そ の 他		
産 業	計	100.0 (2,319)	73.6	11.5	1.2	47.0	31.3	20.3	1.4	24.0	2.4
	製 造 業	100.0 (1,415)	71.7	11.5	1.5	44.3	30.4	21.5	1.3	26.0	2.3
	卸 売・小 売業	100.0 (904)	76.5	11.4	0.7	51.3	32.7	18.4	1.4	20.8	2.7
規 模	5 ~ 29 人	100.0 (246)	76.0	11.8	0.8	41.9	37.8	22.0	1.2	23.2	0.8
	30 ~ 99 人	100.0 (433)	75.3	11.1	0.5	43.2	34.2	18.7	4.3	23.5	1.2
	100 ~ 999 人	100.0 (911)	69.6	10.9	0.9	46.7	27.9	20.2	0.9	26.6	3.8
年 令	1,000 人以上	100.0 (729)	76.8	12.3	2.1	51.6	31.7	20.7	1.5	21.3	1.9
	15 ~ 19 才	100.0 (754)	71.6	9.2	0.8	48.4	28.1	24.1	2.0	25.4	3.0
	20 ~ 24 才	100.0 (1,555)	74.6	12.6	1.4	46.4	32.9	18.4	1.1	23.3	2.1

(注) 多答式のため回答の合計は小計を上回る。

付表7 平 日 休 日 別

			計	ラジオ テレビ 新 聞	休 養	週刊誌 マンガ 雑 誌	勉 強 読 書 な ど	レコード
平 日	計		100.0 (2,965)	79.8	22.7	29.1	18.3	22.3
	年 令	15～19才	100.0 (1,011)	79.5	22.7	34.6	17.8	26.2
		20～24才	100.0 (1,954)	79.9	22.7	26.3	18.5	20.2
休 日	計		100.0 (2,965)	39.6	29.8	7.7	8.0	19.1
	年 令	15～19才	100.0 (1,011)	41.3	26.0	11.0	7.6	22.4
		20～24才	100.0 (1,954)	38.6	31.7	6.0	8.2	17.4

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

余 暇 の す ど し 方 (M A 注)

%

娯 楽	友人と 雑 談	デ ー ト	飲 酒	家 族 団らん	ス ポ ー ツ	ショッ ピング	旅 行 ドライ ブつり	帰 省	その他	不 明
1 8.4	2 6.9	6.0	9.2	1 1.4	2.8	7.6	0.7	0.3	6.2	2.4
1 5.7	2 8.5	3.7	4.5	1 0.0	2.9	7.9	1.1	0.4	5.2	3.0
1 9.9	2 6.1	7.3	1 1.6	1 2.1	2.8	7.5	0.6	—	6.7	2.1
3 7.6	1 8.3	1 6.3	6.8	6.6	7.0	3 5.9	2 0.0	6.0	7.6	2.3
3 7.6	2 0.3	1 4.6	3.8	4.2	6.5	4 1.0	1 8.7	6.6	7.0	2.6
3 7.6	1 7.2	1 7.1	8.4	7.8	7.3	3 3.3	2 0.6	5.7	7.8	2.1

付表8 平日・休日別余暇を過ごした場所（MA注）

		計	自宅 寮・ア パート	職場	友人 恋人 の家	喫茶店	バス ナック 飲み屋	デパー ト商店 街等	勤務先 公共の 体育文 化施設	商業 娯楽 施設	公園	海山観 光地等 自然の 中で	その他	不明
平日	計	1000 (2965)	86.5	25.0	12.1	26.8	9.6	9.2	6.3	13.2	1.1	0.7	8.4	2.2
	15～19才	1000 (1011)	88.2	27.8	10.9	22.1	3.2	10.1	4.8	9.6	1.1	0.5	10.4	2.7
	20～24才	1000 (1954)	85.7	23.5	12.8	29.2	13.0	8.8	7.2	15.1	1.1	0.9	7.4	1.9
休日	計	1000 (2965)	65.4	1.5	21.3	25.9	5.3	31.9	4.0	31.3	5.6	14.4	9.2	2.3
	15～19才	1000 (1011)	64.4	0.9	20.7	26.6	3.1	36.3	3.1	31.7	6.7	11.8	10.2	2.8
	20～24才	1000 (1954)	65.9	1.8	21.6	25.5	6.5	29.6	4.4	31.2	5.1	15.7	8.8	2.1

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

付表9 平日・休日別余暇をすごした相手 (MA注)

%

		計	家族	職場 の仲間	クラブ サークル の仲間	友人	恋人	ひと りで	その他	不明
平日	計	100.0 (2965)	43.6	56.5	7.2	41.6	8.6	42.3	7.4	2.1
		15~19才	40.1	61.2	5.6	40.5	5.2	41.4	8.4	2.8
	20~24才	100.0 (1011)	45.5	54.0	8.0	42.2	10.3	42.8	6.8	1.8
休日	計	100.0 (2965)	43.1	32.0	6.2	57.2	21.2	42.7	9.5	2.2
		15~19才	39.8	36.6	6.0	62.8	17.8	41.3	9.6	2.4
	20~24才	100.0 (1954)	44.6	29.6	6.3	54.3	23.0	43.4	9.5	2.1

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

付表10 クラブ活動の内容 (MA注)

クラブ活動を行っている者=100%

	計	スポーツ 運動	音楽 芸	絵 画	ダンス	和 洋 裁 等	お お 花 茶	料 理	娯 楽	読書会 研究会等	その他
計	100.0 (540)	40.7	8.5	1.1	2.4	14.8	31.5	4.6	5.9	3.7	7.0
年	15~19才	51.8	6.0	0.6	3.0	13.3	23.5	4.8	6.6	0.6	6.0
令	20~24才	35.8	9.6	1.3	2.1	15.5	35.0	4.5	5.6	3.7	7.5
居	親	39.8	8.7	1.0	2.0	13.4	38.1	5.0	3.0	2.7	8.4
住	元	41.9	8.3	1.2	2.9	16.6	23.2	4.1	9.5	5.0	5.4
状	寄 宿 舎 ・ 寮 ア パ ー ト 等	40.2	9.0	0.6	3.1	15.9	29.9	3.1	7.8	3.7	6.2
況	30分まで	40.4	8.8	2.3	1.8	14.0	33.9	7.6	3.5	2.3	9.9
通	1時間まで	45.7	4.3	—	—	10.9	34.8	4.3	2.2	6.5	2.2
動	1時間超	50.0	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—
時	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
間	不明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

付表11 講習講座の受講内容 (MA注)

講習講座を受講している者～100%

	計	スポーツ 運動	音楽 演奏	絵 画	ダンス	和 洋 裁 等	お お 花 茶	科 理 娛 楽	外国語 講座	その他	
年 令	計	100.0 (597)	6.1	6.5	1.2	3.0	40.9	40.4	2.3	4.0	8.5
	15～19才	100.0 (168)	7.7	5.4	0.6	1.8	45.2	34.5	2.4	1.8	9.5
居 住 状 況	20～24才	100.0 (429)	5.4	7.0	1.4	3.5	39.2	42.7	2.3	4.9	8.2
	親 元 寮 宿舎・寮 アパート等	100.0 (357)	5.9	5.0	1.4	2.8	40.1	45.7	1.1	3.1	9.2
通 勤 時 間	30分まで	100.0 (240)	6.3	8.8	0.8	3.3	42.1	32.5	4.2	5.4	11.5
	1時間まで	100.0 (339)	6.8	6.8	0.9	4.4	44.2	36.6	3.8	3.8	7.7
	1時間超	100.0 (208)	5.8	7.2	1.9	1.4	37.5	40.9		3.8	10.6
	1時間超	100.0 (50)	2.0	2.0	—	—	32.0	64.0	2.0	6.0	6.0

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

付表 12 休暇の時期別まとまつた休暇

		夏 休 み 盆 休 み						年 末 年		
		小 計	日 数				1人平均休暇 日 数	小 計	日	
			5～ 7日	8～ 9日	10日 以上	不 明			5～ 7日	8～ 9日
計		100.0 (1,107)	70.0	19.2	10.0	0.8	7.2	100.0 (1,254)	63.6	24.6
産 業	製 造 業	100.0 (775)	68.6	21.3	9.2	0.9	7.2	100.0 (1,010)	59.9	26.9
	卸 売 業 小 売 業	100.0 (332)	73.2	14.1	12.1	0.6	7.2	100.0 (244)	79.1	15.2
規 模	5～29人	100.0 (52)	69.2	11.6	19.2	—	7.4	100.0 (94)	87.2	8.5
	30～99人	100.0 (124)	92.7	1.6	5.7	—	6.7	100.0 (192)	90.6	7.8
	100～ 999人	100.0 (467)	64.7	25.3	8.8	1.2	7.2	100.0 (537)	57.9	23.3
	1000人 以 上	100.0 (464)	69.4	18.5	11.4	0.7	7.3	100.0 (431)	53.6	37.3
居 住 状 況	親 元	100.0 (443)	76.7	13.8	8.6	0.9	7.0	100.0 (576)	72.4	18.0
	親 元 を 離れている	100.0 (664)	65.5	22.7	11.0	0.8	7.3	100.0 (678)	56.2	30.2

(5 日以上) の休暇日数並びに 1 人平均休暇日数

%

始 休 暇			そ の 他					
数		1人平 均休暇 日 数	小 計	日 数				1人平 均休暇 日 数
10日 以上	不 明			5～ 7 日	8～ 9 日	10日 以上	不 明	
11.1	0.7	7.5	100.0 (492)	82.5	12.4	19.7	0.2	9.1
12.7	0.5	7.7	100.0 (317)	74.8	12.3	25.2	—	9.0
4.5	1.2	6.6	100.0 (175)	96.6	12.6	9.7	0.6	9.4
4.3	—	6.6	100.0 (29)	82.8	6.9	20.7	—	14.6
1.1	0.5	6.4	100.0 (50)	80.0	6.0	30.0		10.0
18.1	0.7	8.0	100.0 (180)	70.0	17.2	28.3	0.6	9.8
8.4	0.7	7.7	100.0 (233)	92.7	10.7	10.7	—	7.7
8.7	0.9	7.1	100.0 (246)	86.2	12.6	14.6	—	9.0
13.1	0.5	7.9	100.0 (246)	78.9	12.2	24.8	0.4	9.2

付表 13 休暇時期別まとまつた(5日以上)の休暇の過ごし方 (MA注)

各休暇をとった者=100%													
		計	帰省	国内 旅行	海外 旅行	スキー スケート	海・山 ハイキ ヤング	スポー ング 運動	勉強 スケー ング等	休養	家事	その他	不明
夏休み・盆休み	計	1000 (1,107)	41.0	27.3	1.4	1.3	29.1	9.8	3.3	30.8	13.1	9.9	2.4
	親元を離れている	1000 (443)	—	37.9	1.8	1.1	42.0	13.5	5.0	34.5	18.7	12.6	4.1
	親元を離れている	1000 (664)	68.4	20.2	1.1	1.4	20.5	7.2	2.1	28.3	9.3	8.1	1.4
年末年始休暇	計	1000 (1,254)	41.8	8.9	0.6	16.0	4.6	5.6	1.4	45.4	21.6	17.9	3.6
	親元を離れている	1000 (576)	—	12.3	0.9	21.0	5.9	7.6	1.7	61.3	33.3	26.4	4.5
	親元を離れている	1000 (678)	77.3	5.9	0.4	11.8	3.4	3.8	1.0	31.9	11.7	10.6	2.8
その他	計	1000 (492)	23.6	39.8	2.0	4.7	10.2	8.5	5.7	33.1	22.4	20.3	5.9
	親元を離れている	1000 (246)	—	47.2	2.9	6.5	11.4	11.4	5.7	41.5	30.5	24.0	4.1
	親元を離れている	1000 (246)	47.2	32.5	1.2	2.9	8.9	5.7	5.7	24.8	14.2	16.7	7.7

注) 多答式のため回答の合計は100%を上回る。

付表14 平日休日別希望する余暇行動

%

	計	スポーツ 運動をし たい	各種講座 の受講や 学校に行 き勉強を	趣味・文 化活動を したい	旅行・ハイ キング等 をしたい	休養に あてたい	その他	不明
平日	計	24.4	21.1	24.3	5.2	22.1	1.9	2.8
	15～19才	27.7	16.7	20.8	5.5	24.8	2.1	3.8
	20～24才	22.7	23.3	26.2	5.0	20.6	1.8	2.3
休日	計	15.5	2.4	6.7	65.7	10.1	1.7	1.2
	15～19才	15.0	2.2	5.8	66.4	10.5	1.7	1.6
	20～24才	15.8	2.5	7.2	65.4	9.9	1.6	1.1

参

考

勤労青少年の職業と余暇に関する調査票

(50年11月 ~ 12月)

秘

労働省婦人少年局

都道府	事業所	サフル	産 業 分 類	事業所	事業所
番号	番号	番号	番号	番号	番号

はじめに次の点をおたずねします。

性	年 令	学 歴	居 住 状 況	勤 続 年 数	雇 用 形 態	賃 金 形 態	片道の通勤時間
1 男	() 才	1 中 学 卒 2 高 校 卒	1 親元 2 事業所の寄宿舎・寮など 3 住込 4 アパート・間借・下宿など	1 3年未満 2 3~5年未満 3 5~7年未満 4 7年以上	1. 本採用 2. 臨時・日雇等	1. 月給 2. 日給月給 3. 日給 4. その他()	1. 30分まで 2. 1時間まで 3. 1時間以上
2 女		3 短大・大学卒					

以下の問について、とくにことわりのない場合は1つだけ○をつけ()内に必要事項を記入してください。

(職業生活について)

問1 あなたは、現在どのような仕事をしていますか

- 技能工・現場作業員(プレス工・組立工・印刷工・修理工・縫製工など)
- 事務員 → { ☐ 一般事務、会計事務、経理事務
☐ キーパンチャー・タイピストなど機械事務
- 販売員(商店店員、デパート店員など)
- その他()

問2 あなたの勤務は、次のうちどれですか

- 日 勤
- 交替制勤務 { ☐ 二交替
☐ 三交替
- その他

問3 あなたの勤め先の休日はどのように決まっていますか

- 1 週休1日 2 週休2日 { ☐ 毎週
☐ 隔週又は月2回
☐ 月1回
☐ 月3回

問4 あなたの10月中の手取賃金はどのくらいですか (察費・支払い等で天引きされている場合は加えてください。)

- 1 5万円未満
- 2 5~6万円未満
- 3 6~7万円未満
- 4 7~8万円未満
- 5 8万円以上

問5 あなたは、10月分の給料のうち、親・姉妹に仕送りしたり生活費等を家計に入れましたか

- 1 家族と同居している方にうかがいます
イ 仕送りをした → どのくらいですか () 円位
ロ 仕送りをしない
- 2 家族と同居していない方にうかがいます
イ 家計に入れた → どのくらいですか () 円位
ロ 家計に入らなかった

問6 今年に入つて、あなたは仕事量の減少や生産調整など会社の都合による一斉休業や交替休業で休んだり、残業が減ったことがありますか

- 1 一斉休業や交替休業は?
(1) ない
(2) あった
→ 1 何日休みましたか () 日間
→ 2 休業中賃金や手当は支給されましたか
a 支給された → { (a) 賃金の100%
(b) 賃金の80~100%未満
(c) その他(支給率又は金額) }
b 支給されない

問7 あなたの生活にどんな影響がありましたか(該当全部に○をつけてください)

- アルバイトなど収入をともなう仕事をしていた
- 生活が困難になり家族に迷惑をかけた
- 寄宿舎・寮が閉鎖され困った
- 学校・習い事を続けられなくなった
- 自分の時間がふえたので勉強・習い事などをした
- 自分の時間がふえたので旅行・スポーツなどを楽しんだ
- その他()
- 特に影響はない

問8 ここは学校卒業後最初の勤め先ですか

- 1 最初の勤め先
() 回目の勤め先
→ 2 この前の勤め先をやめた理由はなんですか
イ 労働条件が合わなかった
ロ 仕事が合わなかった
ハ 学校・習い事等に行くのに今の会社が都合よかった
ニ 福祉施設がととのってなかった
ホ 現在の会社にさそわれて
ヘ 会社の倒産・人員整理による解雇・希望退職等
ト その他()

問9 あなたは、現在の勤め先で今後も働き続けたいですか

- 1 将来もずっと続けたい
- 2 いずれはやめたい
- 3 近い将来やめたい
- 4 わからない

(人生観など)

問10 あなたの人生の目標はどちらかといえれば次のどれにあたりますか

- 1 地位や名譽を得ること
- 2 金持になること
- 3 仕事に打ちこむこと
- 4 社会のために役立つ仕事、活動をする
- 5 仕事はともかくとして趣味豊かな生活をする
- 6 明るい家庭を築くこと
- 7 その他(どんなことですか)

問11 あなたは心を打ち明けて話せる友人がいますか

- 1 いる
- 2 いない

→どこで知り合いましたか(複数の場合は該当全面に○をつけてください)

イ 職場	
ロ 学生るとき	
ハ クラブ・サ・タル	
ニ 旅行・ハイキング等	
ホ その他()	

→いつもどんなことを話しますか(主なもの8つまであげてください)

イ 職場・仕事のこと	ホ 一致する趣味・行動のこと
ロ 上役の愚痴など	ヘ 将来の生活設計
ハ 異性のこと	ト 人生一般
ニ 共通の友人の消息	チ その他()

問12 あなたは異性の友人・恋人がいますか(問11と重複してもさしつかえありません)

- 1 いる
- 2 いない

(余暇生活について)

問13 あなたは、過去1年間に、8日以上とめて休んだことがありますか(純粋で休んだ場合はのぞいてください)

- 1 ある
- 2 ない

イ 夏休み・盆休み	
ロ 日数.....()日間	
ハ 日数.....()日間	
ニ 日数.....()日間	
ホ 日数.....()日間	

ロ 年末年始休暇

イ 日数.....()日間	
ロ 日数.....()日間	
ハ 日数.....()日間	
ニ 日数.....()日間	
ホ 日数.....()日間	

ハ その他

イ ()月	
ロ ()月	
ハ ()月	
ニ ()月	
ホ ()月	

イ ()月	
ロ ()月	
ハ ()月	
ニ ()月	
ホ ()月	

休みの過ごし方

1 帰省	2 国内旅行	3 海外旅行	4 スキー・スケート
5 海・山・ハイキング・キャンプ	6 4,5以外のスポーツ・運動	7 勉強・スタグ・ラング等	8 休養
9 家事	10 その他		

問14 あなたは、この3カ月の間に、1週間のうち、毎週決まっていますこと(1日の余暇時間の大部分にあたるような行動)がありますか。たとえば、月・水はお花、月・金 学校など

イ ()曜日	→	
ロ ()曜日	→	
ハ ()曜日	→	

決まっていますことの内容

クラブ活動	1 スポーツ・運動(登山・ハイキングを含む)	2 音楽・演奏
	3 映画	4 ダンス
	5 和・洋装・着付・着物	6 お花・お茶
	7 料理	8 読書・研究会
	9 読書・研究会	10 その他
講座・講習	11 スポーツ・運動	12 音楽・演奏
	13 映画	14 ダンス
	15 和・洋装・着付・着物	16 お花・お茶
	17 料理	18 読書・研究会
学 校	19 定時制高校	20 夜間短大・大学
	21 定時制高校	22 夜間短大・大学
そ の 他	23 職業訓練校	24 その他
	25 自治会活動	26 労働組合活動
	27 その他	

問15 あなたは、先週の余暇時間の過ごし方を平日・休日別にあらわしてください(問14で決まっていますことと答えた方は、その行動以外についてお答えください)

平日	
休日	

1 テレビ・ラジオ・新聞	2 休養	3 通判訪・まんが・雑誌など	4 勉強・読書など
5 レコードを聞く	6 音楽・演劇・音楽・スポーツの観戦・パチンコ・マージャン・ボウリング・ゴルフ・しよきなど	7 友人と雑談	8 デート
9 飲酒	10 家族団らん	11 スポーツ	12 ショッピング
13 旅行・ドライブ・ハイキング・つり	14 帰省	15 その他	

2 主にだれとすごしましたか(下欄から番号で8つ位まであげてください)

平日	
休日	

1 親・兄弟等家族	2 職場・旅の仲間	3 クラブ・サ・タルの仲間
4 友人	5 恋人	6 ひとりで
7 その他		

3 主にどこですごしましたか(下欄から番号で8つ位まであげてください)

平日	
休日	

1 自宅・寮・アパートなど	2 職場	3 友人・恋人の家	4 喫茶店
5 パー・ス・タ・飲み屋など	6 デパート・商店街など	7 勤務先・公共の体育施設・文化施設	8 商業娯楽施設(パチンコ店・ボウリング場・マージャン・映画館・ゴルフ練習場・会館など)
9 公園	10 海・山	11 その他	

問16 次にあげた施設のうち、あなたが、先月中旬に一度でも利用した施設がありますかある場合は該当全面に○をつけてください(勤務先のものも含む)

- 1 ある
- 2 ない

1 勤労青少年ホーム・働く婦人の家	2 公民館	3 福祉会館	4 図書館
5 屋内体育館・屋外体育施設	6 屋外運動場(野球場・バレー・テニスコートなど)	7 美術館・博物館	8 青年の家
9 公園	10 その他(どんな施設ですか)		

問17 あなたは、時間、お金、施設などの条件がすべて満たされたならば、余暇に何をしたいと思いますか。下記のうち最も希望するものを平日、休日別にあげてください。

平日	
休日	

1 スポーツや運動をしたい	
2 各種講座の受講や学校に行き勉強したい	
3 (スポーツ・運動以外の)趣味・文化活動をしたい	
4 旅行・ハイキング・ドライブ等をしたい	
5 休養にあてたい	
6 その他(どんなことですか)	

問18 あなたは、余暇のための施設で、身近かに設置を希望するものがありますか。ある場合は該当全面に○をつけてください。

- 1 ある
- 2 ない

1 バレーコート	2 テニスコート	3 野球場	4 グラウンド
5 卓球場	6 プール	7 総合体育館	8 図書館
9 集会所	10 美術館	11 音楽・演劇等の催し	12 各種講座・塾
13 勤労青少年ホーム・福祉会館など総合施設	14 安く泊れる宿泊施設	15 児童館	16 児童館
17 その他(どんな施設ですか)			

(どももありがとうございました)

GAa1/1

労働省婦人少年局



女性と仕事の未来館



00765531